



## 東京都理学療法士協会 豊田 輝 新会長からのご挨拶



このたび、2025 年 6 月 14 日付で公益社団法人東京都理学療法士協会の第 8 代会長（代表理事）を拝命いたしました、豊田輝（とよた あきら）でございます。歴史と実績ある本会の会長職を仰せつかり、前任の森島健会長の築かれた歩みに敬意を表するとともに、理学療法士が社会に果たすべき責務の重さを、改めて強く感じております。

本会は、理学療法士の資質向上を基盤とし、都民の医療・保健・福祉の向上に寄与することを目的に設立され、多くの先人の尽力によって発展してまいりました。今日、少子高齢化や多様な健康課題の顕在化により、理学療法士に求められる役割は、リハビリテーションのみならず、

ヘルスプロモーションや予防分野などまで広がりを見せています。

こうした変化のなかにあっても、私たち理学療法士一人ひとりが、専門性を磨き続けると同時に、社会とのつながりを大切にし、未来に向けた責任を自覚して行動すること、それこそが本会の不変的価値であり、歩むべき道であると考えております。

今後も、本会の理念に共鳴し支えてくださる皆様と手を携えながら、時代の変化にしなやかに対応し、都民に信頼される理学療法士の育成と支援に努めてまいります。引き続き、皆様のあたたかいご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

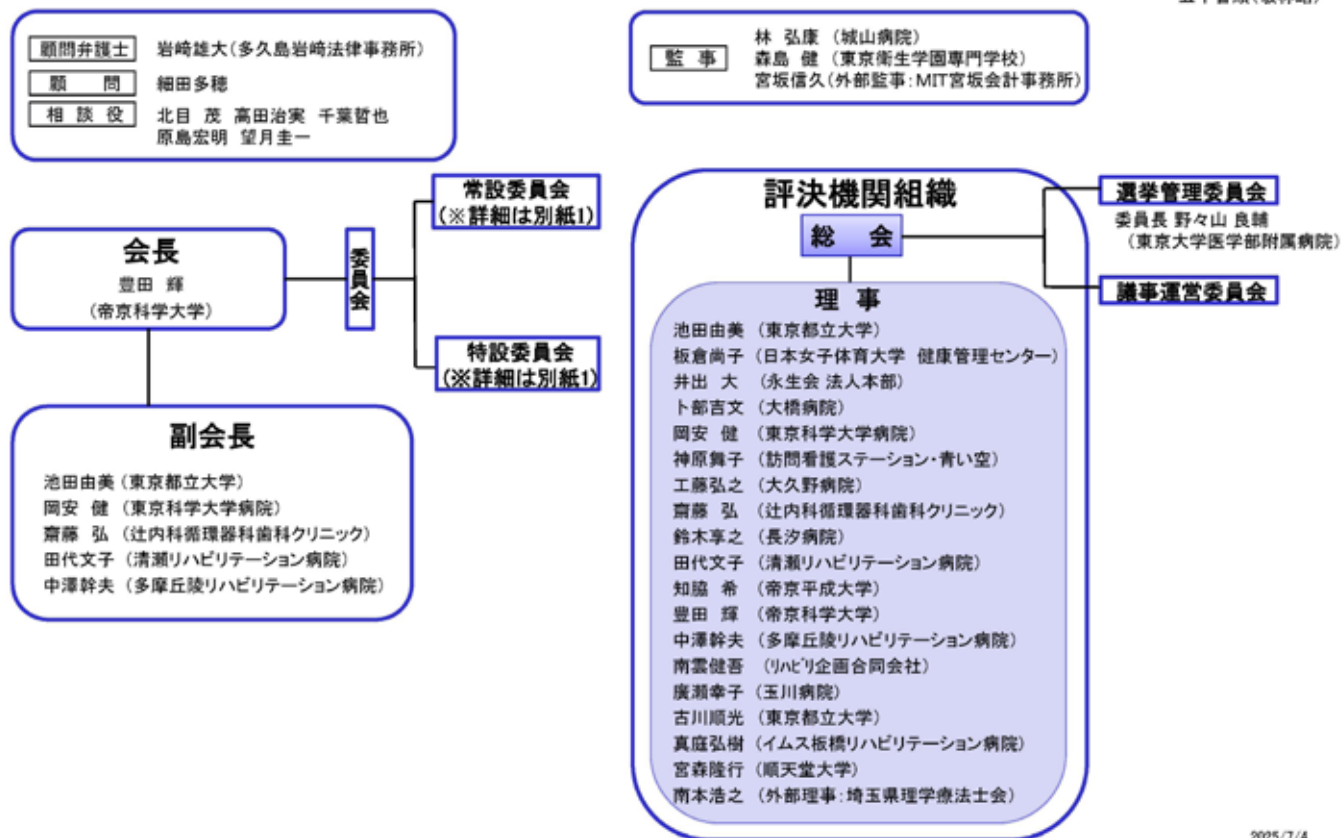
令和 7 年 6 月 14 日  
公益社団法人 東京都理学療法士協会  
会長 豊田 輝

## 235 号の目次

豊田 輝 新会長からのご挨拶	1	地域活性局	20～31
2025 年度 東京都理学療法士協会新体制組織図	2～3	スポーツ局スポーツ支援・推進部	32～38
東京都理学療法士協会部局紹介（スポーツ局）	4～5	スポーツ局子どもの健康・安全部	39～47
第 44 回東京都理学療法学会学術大会準備委員会	6～9	スポーツ局人材育成部	48～50
災害対策委員会	10～13	スポーツ局パラスポーツ部	51
第 14 回日本理学療法教育学会学術大会	14～15	学術局学術誌編集部	52～53
エスカレーターマナーアップ推進委員会	16～18	編集後記	53
学術局研修部	19		

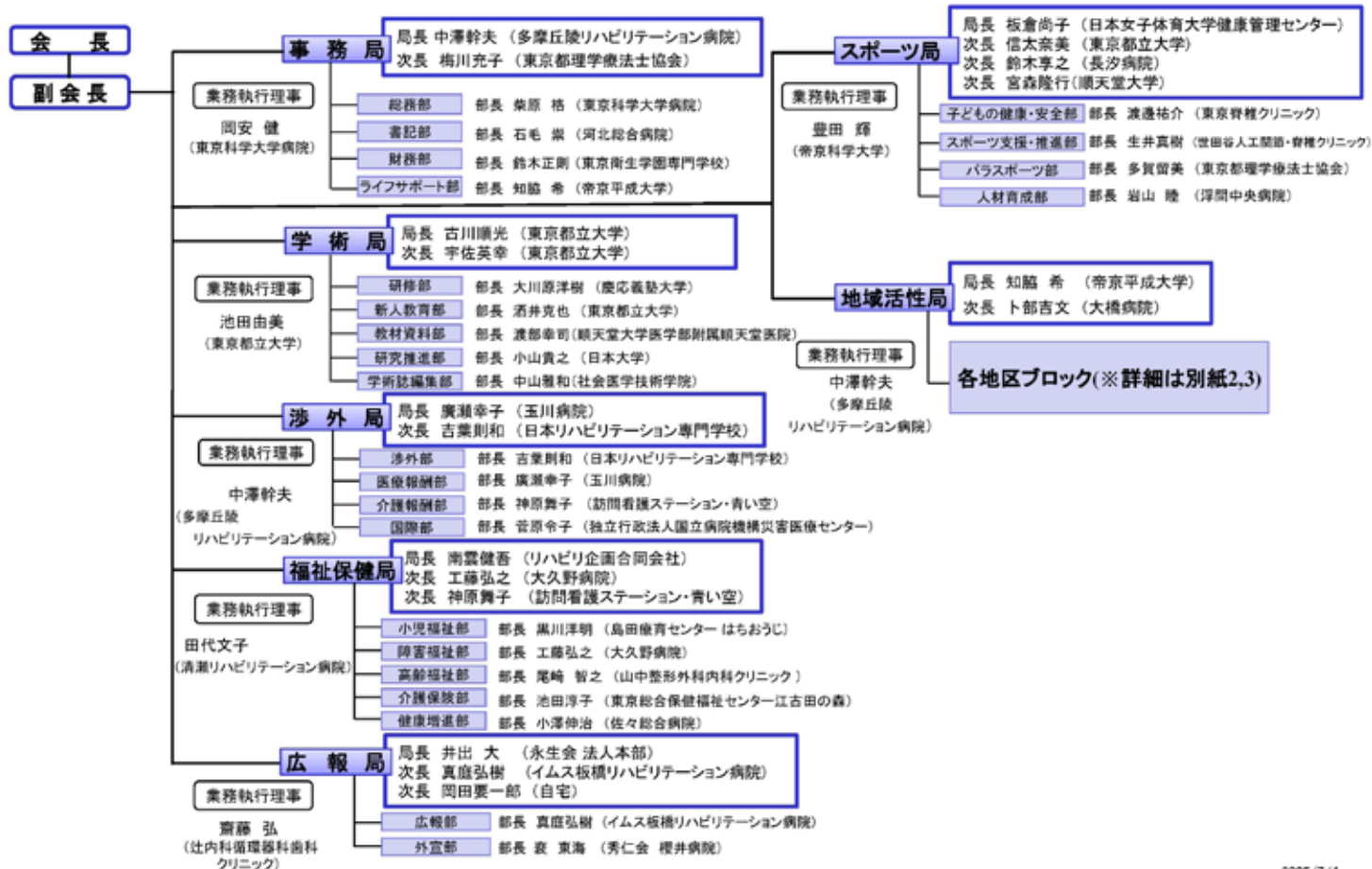
## 2025年度 公益社団法人東京都理学療法士協会 組織図 (委員会・理事会)

五十音順(敬称略)



2025/7/4

## 2025年度 公益社団法人東京都理学療法士協会 組織図 (局)

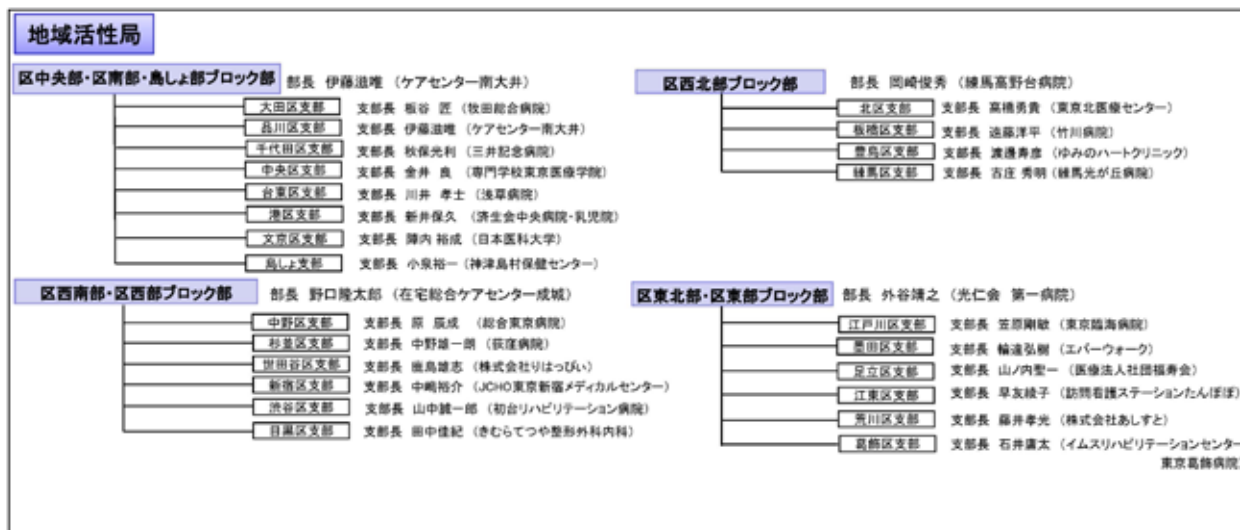


2025/7/4

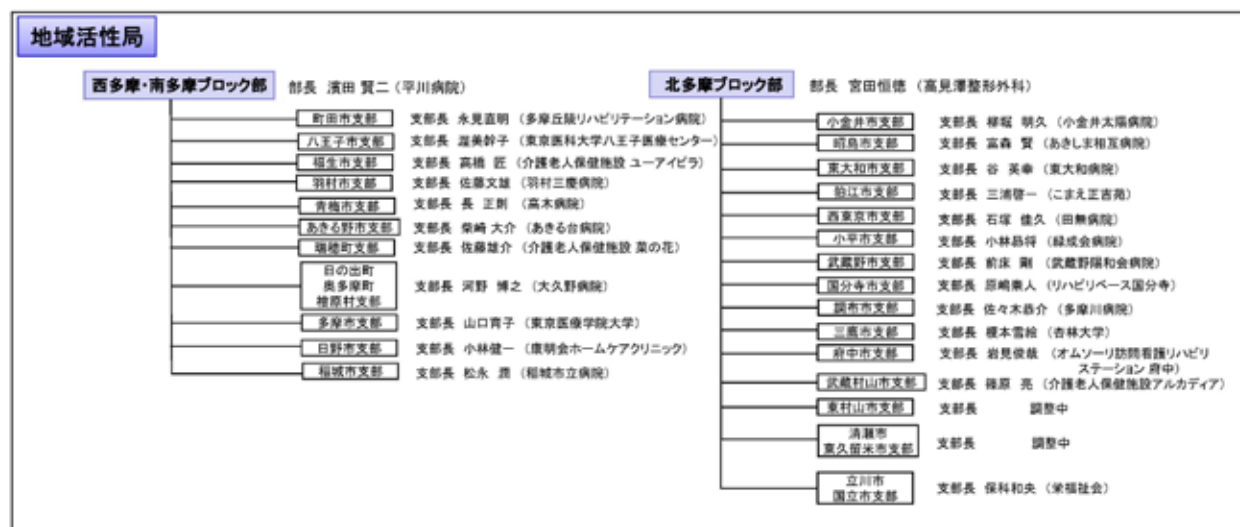
## 2025年度 公益社団法人東京都理学療法士協会 組織図 (別紙1)



## 2025年度 公益社団法人東京都理学療法士協会 組織図 (別紙2)



## 2025年度 公益社団法人東京都理学療法士協会 組織図 (別紙3)





## 東京都理学療法士協会スポーツ局 スポーツ局

業務執行理事	豊田 輝（帝京科学大学）	外部委員（弁護士）	阿部新治郎（鳳栄総合法律事務所）
局長	板倉尚子（日本女子体育大学）	外部委員（弁護士）	多賀 啓（パークス法律事務所）
次長	鈴木享之（長汐病院）	包括連携締結	神田女学園中学校高等学校
次長	信太奈美（東京都立大学）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ理学療法認定取得：9名</li> <li>・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー取得：3名</li> <li>・認定スクールトレーナー取得：6名</li> </ul>	
次長	宮森隆行（順天堂大学）	<b>【理念】</b> 己の心身を鍛錬して知力、技術、感性を磨き、子どもの健康とスポーツに参加する人の安全に寄与し、明るく逞しい未来をつくる。	

## 東京都理学療法士協会スポーツ局 スポーツ支援・推進部

						
部長 生井真樹 （世田谷人工関節・脊髄クリニック）	副部長 西條攻 （（株）ブルーリボン）	部員 鈴木真治 （森山ケアセンター）	部員 上野央 （自宅）	部員 宮川大 （武蔵野みどり診療所）	部員 平良寛朗 （池上総合病院）	部員 安達瑠那 （森山記念病院）

**地域スポーツ支援**



**障がい者スポーツ** **パラスポーツ**  
行政の方 地域の方と連携し、障がいがある方のスポーツ参加や運動するきっかけをお手伝いできます

**部活動スポーツ支援**



**大学フェンシング部サポート**  
選手のコンディショニングや障がい予防に関わる事ができます

**競技スポーツ支援**



**フェンシング 陸上 テコンドー**  
大会会場での活動は、理学療法スキルをさらに向上させます

こどもから海外選手まで対応できるようになります！ オリパラスポーツ何でも対応します！！

## 東京都理学療法士協会スポーツ局 パラスポーツ部

部長	多賀 留美	東京都理学療法士協会	主な事業内容	開催時期
部員	水口 健一	東京都リハビリテーション病院	東京都障害者スポーツ大会の陸上競技と水泳競技種目の大会会場にブースを設置し、選手のコンディショニングサポートやトレーニング指導、介助指導等実施	5月下旬～6月上旬
部員	松永 彩香	国立精神・神経医療研究センター	競技特性と理解する目的に障がい者スポーツの実技研修会、クラス分け研修会、障害者スポーツセンター見学会、障がい者との交流会等実施	年1回
部員	須藤 久也	東京メディカル・スポーツ専門学校	障がい者の支援を目的として、東京都や東京都障害者スポーツ協会などが主催で行う障がい者スポーツに関する講座、イベント、サポート活動事業等へ理学療法士を派遣し、スポーツを通して障がい者の健康に関する健康活動や社会参加の促進の実施	年6回程度
部員	新井 啓一	羽村三慶病院		
部員	宮川 大	武蔵野みどり診療所		



東京都理学療法士協会スポーツ局

メンバー

部長 高橋 功一 (浮間中央病院)  
副部長 森田 孝利 (Physical Care room T クリニック)  
部長 岩山 雄 (浮間中央病院)  
部長 関分 空以 (浮間中央病院)  
部長 向家 知宏 (浮間中央病院)

# 子どもの健康・安全部

事業1 学校保健・学校安全に関わる理学療法士の育成事業  
理学療法士向けに様々な研修会を企画してまいります！  
・子どもたちの運動器の課題って？  
・認定スタートレーナーって？  
・理学療法士が学校でどう関わるの？

事業2 児童生徒等を対象とした学校保健・学校安全教育事業  
児童生徒や教員に対して様々な講座を実施

事業3 学校保健・学校安全における関係組織との共同研究事業  
子どもたちの健康、安全のための分析を実施  
ハバチチャート  
棒グラフ  
3Dデータ特性分析  
データ量単純比較

事業4 学校保健・学校安全に関わる広報活動のための資料動画作成事業  
児童生徒向けの動画を作成したり、チラシの作成を実施

当部では児童・生徒の様々な運動課題に対して取り組んでいます！一緒に活動してみたい方はアクセスして下さい！  
sports.pttokyo@gmail.com

東京都理学療法士協会スポーツ局

## 人材育成部

人材育成部は、スポーツ局の都民に向けたサポート活動において必要とされる知識や技術の習得を目的に、各部と連携して多様な講座を企画・運営しています。さらに、地域から国際大会まで幅広く理学療法士が活躍できるよう、スポーツ理学療法の専門性を高める人材育成にも取り組んでいます。

-人材育成部 部員紹介-

部長 岩山 雄 (浮間中央病院)  
部長 関分 空以 (浮間中央病院)  
部長 向家 知宏 (浮間中央病院)

事業1 スポーツ理学療法認定研修会開催  
理学療法士の専門性向上のため、地域スポーツ活動やアスリート支援に必要な研修会を開催し、一般市民から障がい者まで幅広い人々を対象に、スポーツ理学療法の推進・普及に取り組んでいます。認定理学療法士(スポーツ) 国際認定カリキュラムの実施をしています。

事業2 スポーツ理学療法のスキルアップ研修会  
都内のスポーツ活動の実態を把握し、トップアスリートから地域スポーツへの支援に必要な知識を深める研修会を開催しています。また、スポーツ現場で活動する理学療法士が必要な技術を確立できる“技能テスト”を実施し、実践力を備えた人材を育成しています。

スポーツ局各部 関連記事はこちら

スポーツ支援・推進部	P 3 2 ～ P 3 8
子どもの健康・安全部	P 3 9 ～ P 4 7
人材育成部	P 4 8 ～ P 5 0
パラスポーツ部	P 5 1



## 概要

開催日：2025年9月7日（日）オンデマンド配信あり

オンデマンド視聴期間

2025年9月20日～2025年10月20日（予定）

会場：杏林大学 井の頭キャンパス（東京都三鷹市下連雀5-4-1）

参加対象：どなたでもご参加いただけます。

※ 無料講座のみの参加も必ず事前登録が必要です。

今回の学術大会は、世界で初めて「アルプスの少女ハイジ」から公式認定を受けた学会として、参加者の関心を惹きつけ、親しみやすく、楽しみながら多様な視点を学べる場となるよう準備を進めてまいりました。特別企画3つ、シンポジウム3つ、教育ディスカッション4つ、ハンズオンセミナー2つ、オーガナイズドセッション8つ、ランチョンセミナー3つ、口述発表59題、ポスター発表32題となり、都道府県学会としては大変大きな規模の学術大会となりました。また、都民公開講座では、主に都内で活動する23団体の患者会に参加していただき、それぞれの視点から理学療法士に期待することについて共有し、よりよい支援の形をともに探る機会となっています。学術大会ホームページ、各種SNSから詳細をご確認いただき、ぜひご参加ください！皆さまとお会いできることを楽しみにしています！

## # ハイジの都学会

場所：杏林大学 井の頭キャンパス

日時：2025年9月7日



友だち追加 >>

ID : @tokyo-pt

LINEアプリでQRコードを読み込んでください  
または上記IDを検索して友だち追加してください。



## 大会ポスター

第44回大会チラシは許諾期間終了のため削除させていただきました  
東京都理学療法士協会広報局

## 主なプログラムの紹介

### 特別企画1：「スタンド アップを極める」

バイオメカニクスおよび神経筋制御の最新研究と臨床応用の融合に焦点をあてた実践的な議論を行います。

### 特別企画2：「デジタル時代におけるアクティブシニアの躍動 – 通いの場 2.0 – 」

デジタル技術を活用した高齢者の社会参加を促進する新たな理学療法の形を提示します。

### 特別企画3：「パラスポーツと理学療法の接点」

障害の有無を超えて、運動機能を最大限に引き出すための理学療法の新たな役割を再定義いたします。

### 東京都シンポジウム1

「2040年人口減少フェーズを見据えた東京都理学療法資源の現状と活用」

すでに人口減少フェーズに突入した現在、東京都における理学療法資源の最適配置を目指し、急性期・回復期・生活期の各医療フェーズおよび施設機能におけるリソース配分と制度設計について、専門家による講演と総合討論を通じて多角的に議論を深めていきます。

### 東京都シンポジウム2

「いずれ来る首都直下型地震を見据えて計画すべき平時の災害リハビリテーション」

首都直下型地震の想定被害やBCP(事業継続計画)をはじめ、防災・減災に関する知識や取り組みの重要性を共有する。東京都や関東圏にいる理学療法士が、災害時に適切な対応を取れる体制を平時から整えておくことを目指します。

### 東京都シンポジウム3

「脳卒中患者のリハビリテーションペイシェントジャーニーの実際」

生活期でリハビリテーションを受けている脳卒中患者のADL状況を確認し、そこから遡る形で急性期・回復期における予後予測や目標設定の妥当性を検証します。本企画を通じて、脳卒中患者の各病期におけるリハビリテーションの質向上と、患者にとって最適な医療・介護連携のあり方を模索します。

### 教育ディスカッション1

・「重度重複内部障害を有する患者に対する多面的理学療法」

### 教育ディスカッション2

・「パーキンソン病に対する場面別の理学療法」

### 教育ディスカッション3

「がん患者に対する理学療法の実際」

### 教育ディスカッション4

「脳卒中患者の歩行障害に対する基本的な理学療法」



## 主なプログラムの紹介

### 特別企画1：「スタンド アップを極める」

バイオメカニクスおよび神経筋制御の最新研究と臨床応用の融合に焦点をあてた実践的な議論を行います。

### 特別企画2：「デジタル時代におけるアクティブシニアの躍動 – 通いの場 2.0 – 」

デジタル技術を活用した高齢者の社会参加を促進する新たな理学療法の形を提示します。

### 特別企画3：「パラスポーツと理学療法の接点」

障害の有無を超えて、運動機能を最大限に引き出すための理学療法の新たな役割を再定義いたします。

### 東京都シンポジウム1

「2040年人口減少フェーズを見据えた東京都理学療法資源の現状と活用」

すでに人口減少フェーズに突入した現在、東京都における理学療法資源の最適配置を目指し、急性期・回復期・生活期の各医療フェーズおよび施設機能におけるリソース配分と制度設計について、専門家による講演と総合討論を通じて多角的に議論を深めていきます。

### 東京都シンポジウム2

「いずれ来る首都直下型地震を見据えて計画すべき平時の災害リハビリテーション」

首都直下型地震の想定被害やBCP(事業継続計画)をはじめ、防災・減災に関する知識や取り組みの重要性を共有する。東京都や関東圏にいる理学療法士が、災害時に適切な対応を取れる体制を平時から整えておくことを目指します。

### 東京都シンポジウム3

「脳卒中患者のリハビリテーションペイシェントジャーニーの実際」

生活期でリハビリテーションを受けている脳卒中患者のADL状況を確認し、そこから遡る形で急性期・回復期における予後予測や目標設定の妥当性を検証します。本企画を通じて、脳卒中患者の各病期におけるリハビリテーションの質向上と、患者にとって最適な医療・介護連携のあり方を模索します。

### 教育ディスカッション1

・「重度重複内部障害を有する患者に対する多面的理学療法」

### 教育ディスカッション2

・「パーキンソン病に対する場面別の理学療法」

### 教育ディスカッション3

「がん患者に対する理学療法の実際」

### 教育ディスカッション4

「脳卒中患者の歩行障害に対する基本的な理学療法」

# 第44回東京都理学療法学術大会開催のお知らせ

## 主なプログラムの紹介

### 【ハンズオンセミナー】※現在募集は終了しています

- ・入谷式足底板療法に基づいた歩行評価
- ・腰痛疾患に対する病態別治療アプローチ

### 【オーガナイズドセッション】

オーガナイズドセッションとは、学会や学術大会において、特定のテーマに沿って企画・構成されたセッションを指します。一般演題とは異なり、特定の分野の専門家や研究者が統一的なテーマのもとに集められた円台を連続して発表し、最後に議論を行う形式です。

- ・下肢装具：脳卒中に対する治療法装具と生活用装具
- ・運動器：運動器エコーを使用した理学療法
- ・小児：新生児・乳児に対するよりよい理学療法実践へ向けて
- ・地域：地域理学療法の発展に向けた教育・研修のあり方
- ・内部障害：入院関連機能障害と理学療法のこれから
- ・脳卒中歩行障害：脳卒中片麻痺患者に対する歩行練習の質の検討
- ・基礎研究：理学療法領域に clinician scientist は必要か
- ・ニューロモデュレーション

### 【ランチョンセミナー】

- ・姿勢異常を伴うパーキンソン病治療の転換点：遠隔リハがもたらすパラダイムシフト
- ・理学療法士の未来は、枠を超えた先にある！
- ・生活を見据えたリハビリテーションのゴール設定

## 都民公開講座 シンポジウム

「期待される理学療法士とは」

日時：2025年9月7日 14:00～16:00

場所：杏林大学 井の頭キャンパス E棟1階

参加費：一般都民無料

収容人数：150名

当日12:00より受付にて、整理券を配布します。収容人数を超えた場合にはサテライト会場での視聴となります。車いすなどでご参加される場合は、サテライト会場の観覧となる場合があります。

参加される患者会は学術大会ホームページをご覧ください。

大会長が事前に各患者会とYouTubeで疾患概要や患者会の活動、課題などについて対談を行い、配信しています。会場では患者会ブースを設置していますので、ぜひお立ち寄りいただき、直接コミュニケーションをとってみてください。

本会公式 Youtube チャンネル <https://www.youtube.com/@ハイジの都学会>

## 主なプログラムの紹介

### 《参加登録受付期間》

参加登録は支払いをもって完了いたします。

会員の場合

クレジットカード払い 2025年9月4日（木）まで

\* □座振替・現金振り込みの参加登録は終了しております。

非会員の場合

現金振込 2025年8月29日（金）まで

### 《参加登録方法》

会員の場合

東京都理学療法士協会会員

日本理学療法士協会会員（東京都協会非会員）

➡ 日本理学療法士協会マイページより参加登録

マイページ → 生涯学習管理 → セミナー検索・申込

→ セミナー番号「144231」で検索 → 申込 → 参加費の支払

非会員・一般（都民公開講座・患者会ブースのみ参加）の場合（参加費：無料）

学術大会ホームページから、参加受付ホームの入力をお願いします。

### 【お問い合わせ】

E-mail: [44tokyoptgakkai@gmail.com](mailto:44tokyoptgakkai@gmail.com)

最新情報やプログラムの詳細は、上記ホームページをご確認ください。

### 【会場アクセス】

<https://sites.google.com/view/44th-tokyo/> アクセス会場交通案内



## 東京都⇄東京都 JRAT「災害時におけるリハビリテーション支援活動に関する協定」締結報告

### 【協定締結式】

日 時：2025 年 7 月 23 日（水）15:00 ～ 15:30

会 場：東京都庁

参加者：

（東京都）

山田忠輝氏（東京都保健医療局長）

谷田 治氏（東京都保健医療局次長）

成田友代氏（東京都保健医療局技監）

新倉吉和氏（東京都保健医療局医療政策部長）

宮澤一穂氏（東京都保健医療局医療政策担当部長） 他  
（本 会）

豊田 輝 会長

松本浩一 災害対策委員会委員長



### 【報告】

このたび、東京都と本会が構成団体として参画している東京都災害リハビリテーション支援関連団体協議会（東京都 JRAT）との間で「災害時におけるリハビリテーション支援活動に関する協定」を締結いたしましたので、ご報告申し上げます。

本協定では、災害時に、被災者や要配慮者等への医療支援活動を行うリハビリテーション支援チームを派遣や、平時の訓練などについて定めたものです。

この協定により、災害時の急性期医療を支える後方支援体制を整え、災害関連死や生活不活発病を防ぐとともに、被災された方々が一日も早く自立した生活を取り戻せるよう、リハビリテーション医学・医療の視点から組織的な支援を行う取り組みが、正式に東京都の医療支援活動の枠組みに位置付けられました。

今後は、この協定を出発点として、関連団体と協力し、東京都内各地域での組織体制の強化、人材育成、情報共有の標準化などを一層推進し、東京都のレジリエンス向上に貢献してまいります。



報告者：松本浩一（災害対策委員会）

## 第 22 回災害時安否確認システム予行演習のお知らせ

東京都理学療法士協会では、東京都作業療法士会および東京都言語聴覚士会と合同で、毎年 2 回実施している災害時安否確認システムの予行演習を、下記の内容で実施いたします。皆さまの積極的なご参加をお願い申し上げます。

### 【災害時安否確認システム】

概 要： Google フォームを使用した安否確認情報登録

目 的： 大規模災害等発災時における安否状況や各地域の被災状況を確認し災害支援に役立てる。



### 【災害時安否確認システム予行演習】

日 時：2025 年 9 月 1 日（月）～ 2025 年 9 月 8 日（月）

対 象：理学療法士・作業療法士・言語聴覚士 ※会員・非会員は問いません

方 法：下記の URL 又は QR コードから Google フォームにアクセスし情報を登録して下さい

備 考：東京都理学療法士協会・東京都作業療法士会・東京都言語聴覚士会との合同開催となります  
施設単位ではなく個人単位での参加（登録）となりますのでご注意ください

< URL >

<https://forms.gle/EN9P9Vm3AkqJGYxd6>

< QR コード >



### 【お問合せ先】

医療法人財団健貢会総合東京病院 診療技術部 リハビリテーション科 松本浩一（理学療法士）

TEL: 03-3387-5119（直通） / E-mail: [tokyopt.saigai@gmail.com](mailto:tokyopt.saigai@gmail.com)

【災害時安否確認システム予行演習参加方法】 ★所要時間最短 1 分未満

- ① URL 又は QR コードから Google フォームにアクセスする ※画像は過去使用したフォームです
- ② 氏名や被害状況などの必要情報を記載・選択し、送信（登録）して終了です

## 第 22 回災害時安否確認システム予行演習のお知らせ

### 【災害時安否確認システム予行演習参加方法】 ★所要時間最短 1 分未満

- ① URL 又は QR コードから Google フォームにアクセスする ※画像は過去使用したフォームです
- ② 氏名や被害状況などの必要情報を記載・選択し、送信（登録）して終了です。

**安否・被害状況入力フォーム**

第17回災害時安否確認システム予行演習  
2023年3月11日（土）～2023年3月18日（土）

fokyo@pt.saigai@gmail.com （共有なし）  
アカウントを切り替える

\*必須

氏名 \*  
例: 安西 太郎  
回答を入力

ふりがな \*  
例: あんぴ たろう  
回答を入力

職種 \*

- ☐ PT（東京調理学療法士協会 会員）
- ☐ PT（上記以外）
- ☐ OT（東京都作業療法士会 会員）
- ☐ OT（上記以外）
- ☐ ST（東京都言語聴覚士会 会員）
- ☐ ST（上記以外）

所属施設所在地（区市町村・50音順） \*  
自宅会員の方は自宅所在地を選択してください

選択

安否状況 \*  
ご自身の安否状況を回答してください

☐ 無事

☐ 何らかの被害を受けた

前問で「何らかの被害を受けた」を選択された方は状況を記載してください

回答を入力

その他、家族・同僚等の安否状況  
差し支えない範囲で記載してください

回答を入力

その他、周囲の被害状況など  
例: 所属施設が半壊、〇〇が不足している など

回答を入力

送信

フォームをクリア

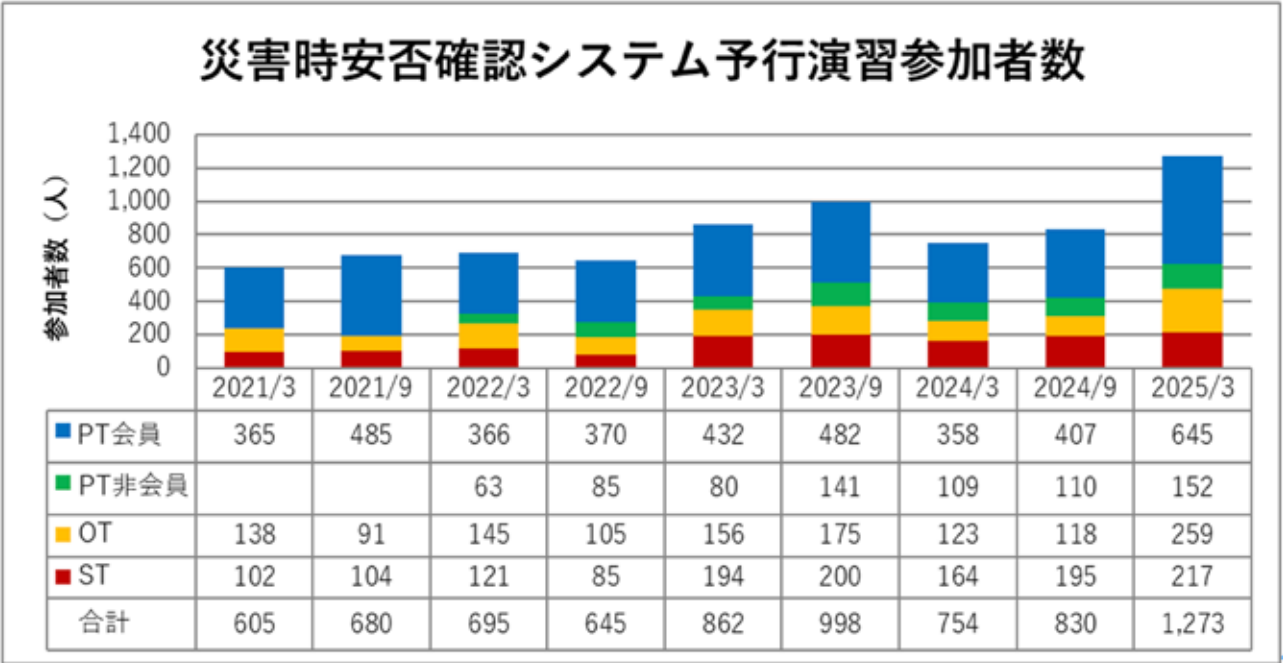
当面の参加会員数目標として、会員の約 1 割にあたる 1,000 人を掲げています。  
今後とも、ご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

**★目標：会員参加者数 1,000 名以上★**



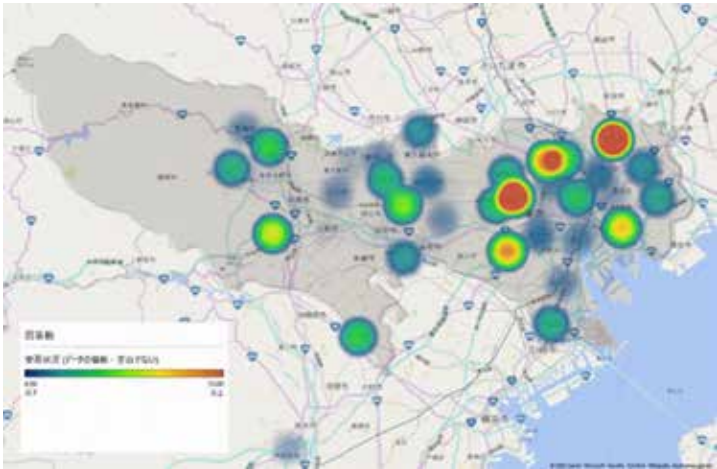
補足資料：災害時安否確認システム予行演習結果

【参加者数】

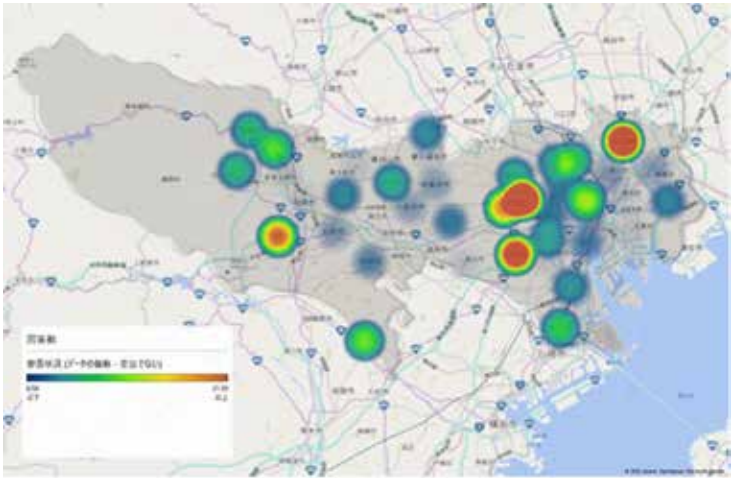


参加会員数\_ヒートマップ ※赤色：多⇔青色：少

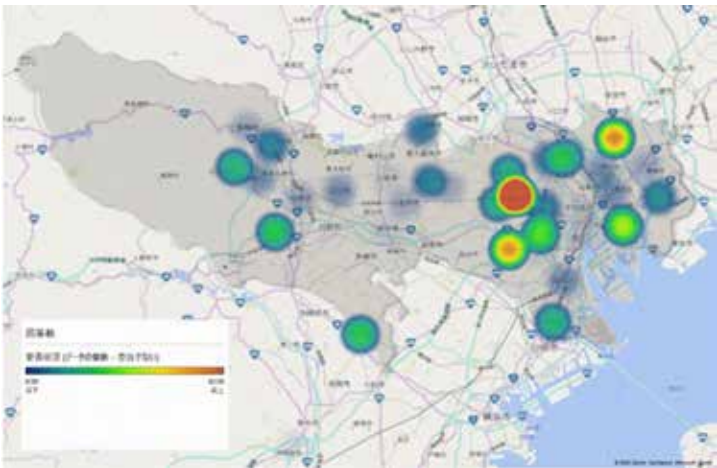
◇第21回：R7.3.11～3.18



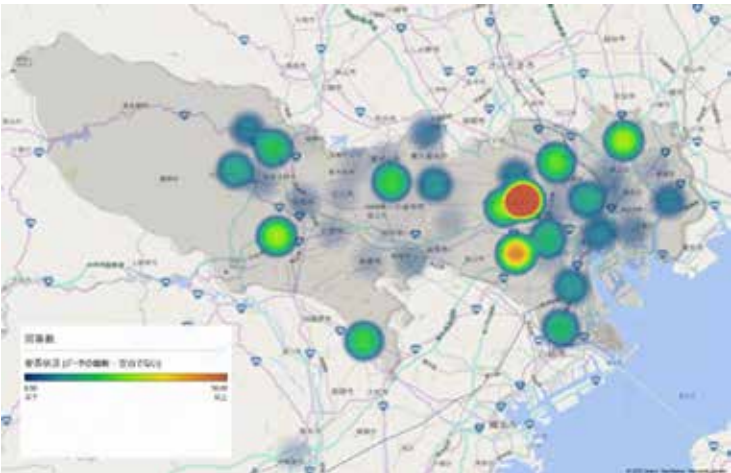
◇第20回：R6.9.1～9.8



◇第19回：R6.3.11～3.18



◇第18回：R5.9.1～9.8



## 第14回日本理学療法教育学会学術大会 学術大会長からのメッセージ

2026年1月10日（土）・11日（日）、帝京平成大学池袋キャンパス（東京都豊島区）にて、第14回日本理学療法教育学会学術大会を開催します。大会テーマは「日本理学療法教育学会の未来～今こそ叡智を集約せよ～」です。

近年、理学療法士を含む医療者教育の発展は著しく、優れた教育者は、より効果的で意義ある教育の研究・実践に取り組んでいます。本学術大会の目的は、そうした知識や教育実践という“叡智”を持ち寄り、共有し、さらなる教育の発展に向けて議論することです。

大会長講演、3つの特別講演、シンポジウム、研究演題発表のほか、参加者の叡智を集約するための3つの企画を紹介します。

### 1) 公募型企画

日本理学療法教育学会会員を中心に応募のあった、日々の実践や新たな教育方略を提示・実践するワークショップやシンポジウムを実施します。ワークショップ8件、シンポジウム4件の計12件が採択されました。

### 2) 学生企画

学びの主体者であり、理学療法の未来を担う学生による企画です。将来、理学療法士という素晴らしい仕事に誇りを持てるよう、学生の夢・希望・悩みを参加者と共有し、将来の理学療法教育に必要な視点を共に考えます。

### 3) 委員会企画

日本理学療法教育学会の各委員会による企画です。学術事業委員会からは「臨床実習前後の評価」を、ガイドライン委員会からは「理学療法教育学会版教育ガイドライン」をテーマに、参加者とともに議論を深めます。

参加者と共に創り上げる学術大会です。皆様の叡智を持ち寄り、ぜひご参加ください。

第14回日本理学療法教育学会学術大会  
学術大会長 芳野 純（帝京平成大学）



# 第14回 日本理学療法教育学会 学術大会



第60回  
日本理学療法学術大会

日本理学療法教育学会の未来  
今こそ叡智を集約せよ



2026 1/10 (土)  
/11 (日)

帝京平成大学  
池袋キャンパス

学術大会長 芳野 純

準備委員長 吉本 真純



大会HP

※本学術大会は、第60回日本理学療法学術大会の1つとして開催されます。



## World Physiotherapy Congress 2025 ジャパンブースにて活動紹介

2025年5月29日（木）～31日（土）に、東京国際フォーラムにて World Physiotherapy Congress 2025 が開催されました。この学会は世界理学療法連盟が主催する2年に一度の国際会議であり、世界中の理学療法士が一堂に会し知見を共有する場として最大規模の集いです。

当委員会はジャパンブースにて活動紹介を行い、世界各国から来場された理学療法士と「理学療法士による社会活動」について意見交換を行いました。また、前回のニュースでお知らせした英語版「エスカレーターマナーアップ」キーホルダーを、この場で初めて国際的にお披露目しました。ブースでは多くの方が手に取り、興味を示してくださり、活動内容をより具体的に理解していただけたと感じています。

### 【世界の理学療法士の声】

ジャパンブースでは、本委員会が行う「エスカレーター利用者が安心・安全に利用できるよう、歩かず立ち止まり、手すりにつかまることを呼びかける活動」についてアンケートを実施しました。

多くの国の方から賛同や共感の声をいただき、「自国でも同じ課題がある」「安全性を高める活動は理学療法士にとって重要」などの具体的な意見を伺うことができました。国境を越えて同じ課題を共有していることに驚き、活動の意義を再確認しました。

今回の国際交流を通じ、活動の重要性を世界的な視点で考えるきっかけを得ました。

今後はいただいた意見やアイデアを取り入れ、より多くの方に安全な移動環境を届けられるよう活動を発展させていきたいと思ひます。

報告者：心身障害児総合医療療育センター 山本竜平



### 英文エスカレーターマナー動画公開

新たに英文のエスカレーターマナー動画を作成しました。YouTube にて動画を公開しています。インクルーシブな社会の推進に少しでも寄与出来るようにインバウンド等、海外の方にも伝わるように作成しました。多様性を認め合う共生社会を目指し、安心・安全なエスカレーターの乗り方、止まって乗りたい方がたくさんいることが、広く周知できることを願っております。

英文動画 URL : <https://youtu.be/6FBq6xhKgIQ> (2025 年公開)

日本語動画 URL : <https://youtu.be/MRBqxaKEEMM> (2019 年公開)



英文動画 QR コード



## インクルーシブ教育体験イベント「共生社会ってなんだろう？」開催報告

日時：2025年8月3日（日）13：30～16：00

会場：BPM イベントスペース（世田谷区）

参加者：40名の小学生と保護者

エスカレーターマナーアップ推進委員会では、インクルーシブ教育体験イベント「共生社会ってなんだろう？」を、無料開催しました。

今年で3回目となる今回のイベントは、特別支援学校鹿本学園ボッチャ部の生徒を講師兼スタッフとして招き、ボッチャの指導をしていただきました。細かなルールや技の説明をしていただき、例年にも増して、子どもたちが身近に感じて楽しむことができていたと思います。

また、本会が作成したまんが教材「わけがあってこちら側に止まっています～心のバリアフリー～」を活用したワークショップでも、子どもたちが、元気に手を挙げて発言している姿や、いろんな人の立場に立って、エスカレーターの乗り方を一生懸命考えている姿が印象的でした。参加者からのアンケートでも、一緒に参加した親御様から、「エスカレーターで手すりに左手で掴まらない人がいるなんて考えたこともなかった。あの人、この人はどうだろう。どうしたら乗りやすいのか。子どもとの会話がどんどん発展しました。とても素敵な時間でした。」など多くの好評なご感想をいただきました。

今回のイベントを通じて、子どもたちが、自分とは違う人を受け入れ、助け合う気持ちを少しでも育むことができたと感じています。今後も、誰もが生きやすい社会の実現に向けて、学びの場を広げてまいります。



### <まんが教材>

特設 HP：<https://www.pttokyo.net/esca/>

2023年6月9日から特設サイトよりまんが教材の無料提供を開始しております

報告者：森山脳神経センター病院 石川愛香



## 理学療法の日 介護予防キャンペーン 活動報告

日時：2025年7月12日（土）午前10時～午後1時

会場：東京たま未来メッセ（八王子）

対象：都民、都民の健康に関わる全ての方

参加費：無料

西多摩南多摩ブロック主催の理学療法の日 介護予防キャンペーンに当委員会のブースも設置させて頂きました。

当日はインボディ測定、フレイル予防のミニ講座、その他たくさん企画がありました。当委員会の活動ではチラシやキーホルダーの配布を行い、エスカレーターマナーの目的や都民の方の認識や現状などの意見交換を行いました。参加者よりエスカレーターのマナーについてご質問や環境によってはなかなか止まって乗れないよ。空いてれば歩いたほうが早いよ。等のご意見も頂きました。また、共感して頂けるお言葉など様々な意見交換が行えました。



報告者：大久野病院訪問看護ステーション 村田敬明

## エスカレーター「歩かず立ち止まろう」キャンペーンの実施について

2025年7月22日（火）～8月31日（日）の期間で、全国の鉄道事業者60社局・（公社）東京都理学療法士協会を含む7団体や空港施設、商業施設、自治体と共同で、エスカレーターの安全利用を呼びかけるキャンペーンを実施しています。

このキャンペーンはエスカレーター利用者が安心・安全に利用できるよう歩かず立ち止まる、手すりにつかまることを呼びかけるキャンペーンとなります。期間中は駅構内等でポスターを見かけることも多いと思います。エスカレーターをご利用になる際に、バランスを崩して転倒されたり、駆け上がったり駆け下りたりすることで他のお客さまと衝突し転倒するなどの事象や、エスカレーターで歩行用に片側を空ける習慣は、左右いずれかの手すりにしかつかまることができない方にとって危険な事故につながる場合もあります。

当協会としては「歩かずに立ち止まろう」「手すりにつかまろう」などの呼びかけをイベントやSNS等にて実施しています。

報告者：大久野病院訪問看護ステーション 村田敬明



### <エスカレーターマナーアップ推進委員会>

各種お問い合わせ（Mail）：[esca.pttokyo@gmail.com](mailto:esca.pttokyo@gmail.com)

Facebook URL：<https://goo.gl/nnXZcQ>

X（旧 Twitter）：URL [https://twitter.com/tomanoru\\_esca](https://twitter.com/tomanoru_esca)

まんが教材特設 HP：<https://www.pttokyo.net/esca/>



< Facebook > <特設 HP QRコード>

エスカレーターマナー 動画

○英文動画 URL：<https://youtu.be/6FBq6xhKglQ>（2025年公開）

○日本語動画 URL：<https://youtu.be/MRBqxaKEEMM>（2019年公開）



2026 年度 学術局 研修部事業 公募のお知らせ

東京都理学療法士協会会員の皆様からの 2026 年度理学療法士研修会開催申請受付を開始する運びとなりました。申請を検討される方は、下記募集要項をお読みの上、担当者までメールにてご連絡をお願い致します。日頃より自身の知識や経験を理学療法の発展・向上に役立てたいとお考えの理学療法士の方や、研修会開催にご興味をお持ちの会員の方がいらっしゃいましたら、是非とも奮ってご応募頂ければ幸いです。

記

申請受付期間	2025 年 9 月 1 日（月）～10 月 31 日（木）
研修会開催希望 連絡先	tpta.kensyu@gmail.com
その他	<div><div>・ 申請の際、メールの件名には「2026 年度理学療法士講習会申請について」と明記いただきますようお願い致します。</div><div>・ メール本文には、下記の内容をご記載ください。</div><div></div><div><div>1) 研修会タイトル（仮のもので構いません）</div><div>2) 申請者名・所属</div><div>3) 研修会責任者・所属（2 と同一でも構いません）</div><div>4) テーマ・内容・開催形式</div><div>5) 講師（登録・認定・専門有無）</div></div><div></div><div>・ 複数の応募がございました場合、研修会のテーマ、実現可能性、既存の研修会との重複などの観点から総合的に評価し、学術局内にて選考をさせていただきますのであらかじめご了承ください。</div><div>・ 申請数によっては、同一講師、申請者からの複数申請を制限させていただきますことがあります</div></div>

以上

【研修会に関するお問い合わせ先】  
(公社) 東京都理学療法士協会 学術局研修部 大川原 洋樹  
E-mail : [tpta.kensyu@gmail.com](mailto:tpta.kensyu@gmail.com)

区西北部ブロック部 豊島区支部  
ウィメンズヘルス講座開催報告

日時：2025 年 5 月 16 日

場所：豊島区 区民ひろば千早

講師：田中萌（長汐病院）

アシスタント：關詩織（長汐病院）

対象：豊島区内在住乳幼児（0～1 歳）とその保護者

参加者：子ども 7 名 お母さん 7 名 お父さん 3 名

本活動は、2024 年度より豊島区 区民ひろば千早様にて、産後女性を対象とした簡単な自主ストレッチ講座を開催しています。出産は女性の体に大きな変化を与え骨盤周囲の安定性の低下や筋力のアンバランスから、腰痛や肩の痛みなどの不調が生じやすくなります。さらに産後の育児では、授乳や抱っこ、家事など同一姿勢を長時間続けることが増え、症状が慢性化する例も少なくありません。本講座では、腰痛や肩こりの予防・軽減を目的として、自宅で簡単に実践できるストレッチやセルフエクササイズを紹介しています。特に、産後の体の回復に重要な骨盤底筋群についてその役割や鍛え方、参加者の方からの要望が多い腰痛や肩の痛みに対するストレッチなどをわかりやすく説明し、日常生活に取り入れやすい運動を紹介しています。参加者には、骨盤底筋群の重要性を解説したリーフレットやストレッチをまとめたチラシを配布し、復習や継続に役立ててもらっています。また今回はお父さんの参加もあり、産後女性の身体の変化やお母さんに対して行えるマッサージなどもお伝えすることができ、パートナーにも理学療法士の重要性を啓発出来た点は運営者としても大きな経験値になりました。地域で子育てをする女性が健やかな心身を保てるよう、理学療法士として専門的な知見をいかし、今後も気軽に体の悩みを相談できる場として、サポートを続けていきたいと考えています。



報告者：關詩織（長汐病院）

区西北部ブロック部 豊島区支部  
運動器の健康増進支援に関する講演会

「パパと一緒にからだを動かして遊ぼう」講座実施報告

開催日時：

2025 年 5 月 10 日（土）、2025 年 6 月 28 日（土）、2025 年 7 月 26 日（土）／10:30～11:30

会 場：区民ひろば千早

対 象：2 歳～未就学児とその父親

参加者数：全 36 名

講 師：鈴木 享之（長汐病院）

アシスタント：森本孝則（子どもの健康・安全部副部長）、酒井大将（山王リハビリ・クリニック）

内 容：

2025 年度開催予定の全 11 回講座のうち、4 回目までの様子を報告いたします。これまでのテーマは次の通りです。5 月：「靴の選び方」6 月：「姿勢」7 月：「緊張とリラックス」。

毎回、「足の成長」と「パパの褒め方」の確認を行い、その後は身体を使った遊びやタオル・ボール・輪っかななどの身近な道具を使用して、親子が楽しむプログラムを実施しています。また、森本先生や酒井先生が行って下さるアニマルトレーニングでは、動物の動きを模倣することで、子どもたちが四肢・体幹の協調性やバランス運動を楽しめる内容となっています。

この場に初めて参加する子どもたちは、恥ずかしがったり慣れずに泣いてしまったりすることもあります。徐々に場になじんでいき、最後には元気よくハイタッチをしてくれる、その様な成長の姿も見られます。子どもたちは、ほんの一瞬の目の動きや表情そして身体の動きで、成長を表現してくれます。この成長を感じられる機会を大切に、動くことが楽しくて多くの笑顔と笑い声が響き渡る講座を目指し、開催し続けていきたいと思えます。興味をお持ちの方は、是非！ 支部の垣根も御座いません！ 共に体験してみませんか！ 豊島区支部員一同、心よりお待ちしております！！



報告者：鈴木 享之（長汐病院）



区西北部ブロック部 豊島区支部  
フレイル予防機器活用講座開催報告

開催場所：豊島区内の区民ひろば計 22 カ所

内 容：

豊島区では介護予防事業の一環として各区民ひろばにフレイル対策機器（NEC 社「歩行姿勢測定システム」、タニタ社「ザリッツ」）のいずれかの機器を設置しています。当講座「正しい歩き方を学んで転倒予防に取り組もう！」はフレイル予防・転倒予防を目的にこの機器の結果の見方やそれに基づいた適切な運動方法を紹介するもので、今年度に入り 5 回目の開催となります。

活動を開始した当初はフレイル対策機器が十分に稼働していない区民ひろばも少なくありませんでした。しかし、身体機能の専門家による理学療法士による区民や職員への継続的な啓発や支援により徐々に活用が進み、最近では区民ひろばごとに独自の測定会を開催する事例も増えており、機器を活用する施設が着実に増加しています。

参加者の変化として結果用紙の読み取りや日常生活での運動実践への関心が高まり、講座終了後にも積極的に質問をされる方が増えており、フレイル予防や転倒予防に対する地域住民の意識が向上していると感じています。

今後もフレイル対策機器の活用をさらに促進するとともに、測定結果に基づいた適切な転倒予防運動を、楽しく分かりやすくお伝えしていくことで地域の健康寿命延伸に貢献していきたいと考えています。



報告者：村本 幸祐（ゆみのハートクリニック）



区西北部ブロック部 練馬区支部  
学校保健事業 実施報告

日付：令和7年7月28日（月）

場所：練馬区立開進第四小学校

対象：小学校教職員 20 名

講師：古庄 秀明氏（練馬光が丘病院）

アシスタント：理学療法士 1 名

内容：

練馬区支部では、小学校からの依頼を受け、学校保健事業の一環として小学校での講演会や児童への授業を継続して行っています。今回は、小学校教諭を対象とした児童の姿勢について講義を依頼され、練馬光が丘病院の古庄秀明氏が講師を担当し、学校保健委員会で実施しました。

講義内容としては、初めに理学療法士の役割や仕事の内容などを説明したあとに、小学生と成人の体の仕組みの違いについて骨格や臓器の特徴を交えながら説明しました。また、立位や座位でのアライメントを補助の理学療法士をモデルに説明し、小学生が授業中にとりやすい姿勢との違いを明らかにしました。その後は小学生に好発する障害と姿勢の関係を説明しながら、良肢位が授業やスポーツに与える影響について説明しました。

講義の後半は昨年度、練馬区支部で小学生向けに作成した姿勢指導の動画を用いながら、実際のストレッチを体験していただきました。背筋を伸ばす動きや肩を回す動きが組み込まれたストレッチメニューを実施しながら、授業の合間の時間でも可能であることを体験していました。

質疑応答の時間では、多くの質問が上がり、姿勢を指導するときのコツとして机やいすの高さを調整し授業に集中できる環境を整えることや、姿勢が授業中の集中力や運動時のパフォーマンスに影響することなどを説明しました。

今後も練馬区支部では教職員や保護者にも正しい知識を持ってもらうことに努め、子どもたちの健やかな成長を支援することに関わっていきたいと思います。



報告者：西田 喜実弥（地域医療振興協会 練馬光が丘病院）

区西北部ブロック部 北区支部

【活動報告】理学療法士による介護予防体操教室

日 時：2025 年 5 月 29 日（木）

会 場：東京都障害者総合スポーツセンター体育館

講 師：渡邊祐介

補 助：向家知宏先生（浮間中央病院）、国分空以先生（浮間中央病院）

参加者：14 名

内 容：

東京都障害者総合スポーツセンター 介護予防体操教室（第 1 回）

本年度も、東京都障害者総合スポーツセンターにて、介護予防を目的とした体操教室を年 5 回の予定で開催いたします。その第 1 回目となる今回は、「自重を用いた椅子に座ったままできる運動」をテーマに、教室を実施いたしました。

参加者の皆さまは、歩行が可能な方々であり、主に膝痛に対するセルフチェックおよび簡単なエクササイズを一緒に取り組みました。実施後には「身体が軽くなった！」という嬉しいお言葉もいただき、運動による効果を実感していただけた様子でした。参加者の障害像は多様であります、それぞれの方が可能な範囲で無理なく取り組めるよう、障害者スポーツセンターのスタッフやアシスタントの皆さまと連携しながら進行いたしました。

今後の教室でも、楽しみながら継続できるような運動プログラムを工夫し、より多くの方々にとって意義ある時間となるよう努めてまいります。引き続き、教室を盛り上げていきたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。



報告者：渡邊祐介（東京脊椎クリニック）



区西北部ブロック部 北区支部

【活動報告】理学療法士による介護予防体操教室

日 時：令和7年7月31日（木）

会 場：東京都障害者総合スポーツセンター体育館

講 師：渡邊祐介先生（東京脊椎クリニック）、

補 助：国分空以先生（浮間中央病院）、向家知宏

参加者：12名

内 容：

東京都障害者総合スポーツセンター 介護予防体操教室（第2回）

このたび、東京都障害者総合スポーツセンターの介護予防教室として、障害のある方々を対象に、今年度2回目となる体操教室を前回に引き続き、渡邊祐介先生に講師を務めていただき実施して参りました。今回はノルディックポールを使った運動を実施しました。ノルディックポールを活用した運動は、全身を大きく使うことができ、姿勢トレーニングや全身の筋活動量増大にも効果的です。参加者の皆さまは、最初こそノルディックポールの扱いに戸惑う様子も見られましたが、徐々にリズムよく身体を動かしながら運動を楽しまれていました。特に上肢と体幹を連動させる動きでは、「普段使っていない筋肉を使った気がする！」といった感想が聞かれるなど、日常生活ではあまり使われていない部位への刺激を実感されていました。渡邊先生からは「最近の夏は猛暑日が続いていて、外出が難しい日は今日のような運動をご自宅でもぜひ続けてみてください」とのお話もあり、自宅での継続的な運動の大切さが伝えられました。

次回以降も、楽しみながら効果的に取り組める内容を工夫し、地域の皆さまの健康づくりや介護予防につながるプログラムを提供してまいります。



報告者： 向家知宏（浮間中央病院）

区西北部ブロック部 練馬区支部  
学校保健事業 実施報告

日時：令和7年7月9日（水）  
場所：練馬区立橋戸小学校  
対象者：小学5年生 48名  
講師：菅野雄大氏（練馬光が丘病院）  
アシスタント：理学療法士8名

【内容】

練馬区支部では、以前より学校保健事業に携わっており、理学療法士の視点から児童を対象に生涯教育を行っています。今回、小学5年生を対象に総合学習の一環として「けがの予防」について講師依頼を頂いたため、けがについての講義と予防策としてストレッチの実技を中心に実施しました。

講義の前半は、けがについて「障害」と「外傷」の違い、児童が遊びやスポーツに取り組む際に起こりやすいけがについての講義を行いました。成長期の身体に対し、ジャンプや走る動作で起こりやすい捻挫、ドッジボールでの突き指など、普段体を動かしている際に発生しやすいけがを例に挙げ説明を行いました。また、後半の実技に向け、けがの予防策として運動前にストレッチを行う大切さを伝えました。自身が怪我をした体験や兄弟姉妹が怪我をしたなど、身近に起こりやすい場面やけがの種類を伝えることで、「気をつけよう」といった声もあり、誰でも起こりうる一方、ストレッチで予防することができるという気付きがあったと思います。

後半は、けがの予防としてストレッチを実技形式で行いました。講師とアシスタントによる見本を見た後、2人1組になりストレッチ前後での体の変化を体験しました。体の変化を比較することは、ストレッチの効果を確認すること、体の柔軟性がスポーツによるけがの予防につながることへの理解に繋がったと思います。

今回、けがの予防として講義を行ったことにより、けがへの理解や予防の重要性について少しでも子どもたちに知ってもらえると良いかと思います。また、理学療法士が講義・実技を通し、学童期の生涯教育に携わることは、けがの予防への関心や介助を必要としている人への手助け、配慮を行えるきっかけを作ることができると感じ、私たち理学療法士が学校保健事業に携わることは重要であると考えます。



報告者：齋田 栄吉（介護老人保健施設 大泉学園ふきのとう）



区西北部ブロック部 練馬区支部  
学校保健事業 実施報告

日時：令和 7 年 7 月 1 日（火） 10:00 ～ 12:40

場所：練馬区立石神井小学校

対象者：小学校教職員 5 名、在校生（4 年生）132 名

講師：丸田 翔大 氏（慈誠会練馬高野台病院）

アシスタント：理学療法士 8 名

内容：

練馬区支部では、支部発足直後より学校保健事業に携わらせて頂いています。今回、練馬区立石神井小学校の 4 年生に対し、授業 2 時間分を頂き、「車椅子体験会」を実施しました。車椅子体験会を通して車椅子を使用する高齢者や障害者、その介護者の気持ちを理解する事に加え、高齢者や障害者が可能な動作、介助が必要な動作への理解を深め、手助けを必要とする方に声を掛けるための知識と行動力を育む事を目的としています。

講義内容は、はじめに理学療法士についての紹介を行い、次に車椅子の使用目的や対象、種類やその特徴、部位の名称等をお伝えしました。実際の体験会では、車椅子乗車時及び操作時の注意点をお伝えした後、自走ブース、介助ブースに分かれ、不整地やスロープ、障害物を避けながら自走や介助を行ってもらい、車椅子を使用する方の障壁についてや介助方法等を体験してもらいました。また、体験会にて児童が車椅子を使用する際は常にサポートスタッフが付き添い、児童たちと一緒に安全確認等を行いながら実施しました。児童たちは終始興味を持ちながら授業に参加しており、「ハンドリムを使うときに注意することはあるか」等の質問もあがりました。私たちが学校教育の一場面に関わらせて頂き、児童が高齢者や障害を持った方を理解し手助けを行う第一歩を踏み出すための良い機会になると同時に、私たち理学療法士に興味を持ってもらう機会にもなったのではないかと思います。

練馬区支部では、今後もこのような学校保健事業を継続的に行い、児童や生徒に理学療法士という職業を知って頂き、地域の方々によりよい関わり合いが行えるように学校教育の場で理学療法士が活動できる一助となればと思います。



報告者：高柳 竜馬（慈誠会・練馬高野台病院）

区西北部ブロック部 練馬区支部  
学校保健事業 実施報告

日付：令和7年6月14日（土）

場所：練馬区立大泉小学校 4年生

対象：小学校児童 101名

講師：高柳 竜馬氏（練馬高野台病院）

アシスタント：理学療法士5名

内容：

練馬区支部では、小学校の先生方からの依頼を受け、学校保健事業の一環として小学校での講演会や児童への授業を継続して行っています。今回、車椅子体験学習を依頼され、練馬高野台病院の高柳竜馬氏が講師を担当し授業を実施しました。

授業内容としては、初めに理学療法士の役割や仕事の内容などを説明したあとに、車椅子の基本的な仕組みや使用方法を実際の車椅子を用いながら説明を行いました。その後は児童が実際に車椅子を使用し、自走や介助の方法を体験しました。

授業の前半はスライドショーを見ながら講義形式で実施しました。普通型の車椅子を実際に用いて、部分ごとの名称や操作方法を紹介しました。またスライドで電動車椅子やリクライニング型、スポーツ用などの用途別の車椅子を紹介しながら、普通型との違いを児童らに答えてもらいました。児童たちは積極的に手を挙げながら、違いについて発言している様子が見られました。

授業の後半は実際に車椅子を体験してもらいました。各クラスを2つのグループに分け、車椅子の自走と介助に分けて行いました。段差や不整地、S字カーブなどをまじえたコースを設定し、理学療法士の補助のもと、段差の登りづらさや狭いコースの走りづらさを体験してもらいました。介助のグループでは、不整地や坂道での介助を体験しました。両グループともに児童たちは積極的に体験し、疑問点について理学療法士に質問していた場面も見られました。

当日は学校公開の日であったため、児童の保護者も聴講していました。車椅子体験の時間では児童たちに助言している様子も見られました。児童だけでなく、地域の住民にも車椅子の操作方法や介助方法を紹介する貴重な機会になりました。

今後も、練馬区支部では学校保健事業を継続し、小学生に理学療法士の役割や活躍について知ってもらうとともに、車椅子体験を通じて高齢者や障害者の身体的特徴を理解しながら、児童たちが福祉用具への興味関心を高められるよう努めていきたいと思っています。



報告者：西田 喜実弥（地域医療振興協会・練馬光が丘病院）



区東北部・区東部ブロック部 江戸川区支部  
江戸川区民の健康支援 リハビリ体操教室の活動報告

日 時：2025 年 6 月 15 日（日）

会 場：江戸川区 葛西区民館 3 階 集会室第 2・第 3

講 師：矢島 卓郎（東京臨海病院）

アシスタント：理学療法士 3 名

参加者：10 名

内容：

40 歳以上の区民の方を対象に、リハビリ体操教室を開催しました。「腰痛にならない・負けないカラダをつくろう」と題し、講義、体操指導を行いました。講義は、腰痛となる原因・腰痛になりにくい姿勢・活動について解説しました。体操は、腰痛にならないための筋の伸張性・柔軟性・筋活動について、全体を通し体操を提示し、講師・アシスタントが参加し、参加者個々に指導を行いました。参加者からは積極的に質問、疑問を頂き、自宅に帰られても、体操が継続できるようにアドバイスをしました。多くの参加者から、大変満足頂けるご意見を多数頂きました



報告者：笠原 剛敏（東京臨海病院）



区中央部区南部島しょ部ブロック部 大田区支部  
第 18 回おおたユニバーサル駅伝大会での健康相談 実施報告

日時：2025 年 6 月 1 日 8:00 ～ 14:00（運営サポート 7:00 ～ 16:00）

会場：平和の森公園

参加人数：走者 157 名〔15 チーム 1 チーム（走者 5 名、伴走者 5 名）〕

運営サポート約 50 名

サポートスタッフ：2 名

活動内容：

当日は、会場設営・撤収のサポート、写真記録係、障害をお持ちの方と学生とのコミュニケーションの架け橋としても活動し、障害や年齢の有無によって隔りなく、同じチームとなった方々の交流に貢献しました。

6 月上旬にもかかわらず、当日は炎天下となり、車いすでの参加者や高齢者の健康状態にも注意しながら競技のサポートを行いました。

走者、伴者ともに協力しながら事故やトラブルなく終了いたしました。

共生を育む地域包括ケアシステムの一助を担う機会であり、医療専門職として、障害に対する理解や関心を深めるための働きかけを通じて、都民の健康・福祉に貢献することができると感じました。



報告者：望月 武（山王リハビリ・クリニック）

西多摩南多摩ブロック部 青梅市支部  
研修会開催報告

開催日：令和 7 年 7 月 24 日（水）

日時：18：30 ～ 20：00

方法：WEB（zoom）

テーマ：大腿骨頸部骨折の臨床最前線

青梅市支部では、昨年に引き続き、更なる知識をアップデートできるようにと、医療法人社団仁成会高木病院整形外科部長である北野牧子医師をお招きし『大腿骨頸部骨折の臨床最前線』をテーマに研修会を開催いたしました。平日夜という開催でしたが、188 名（都士会 87 名、他県士会 88 名、非会員 1 名）とたくさんの方が参加されました。臨床現場で遭遇率が高い大腿骨頸部骨折について、基礎的なことを始め、画像診断のコツ、合併症とその対策についてご教示いただきました。

今回は、さらに実際の手術動画をもとに、術式（後方侵入アプローチ）の特徴や組織の侵襲、予後を踏まえて詳しく解説をしていただき受講者は皆、真剣に動画を見て学びました。術後早期より関わっていく理学療法士として、術式を理解することはとても重要なことであると改めて感じた研修会となりました。

青梅市支部では今後も臨床へ活かせる、研鑽していけるような研修会の企画・運営を目指して参ります。





## 【活動報告】江戸川区パラスポーツ初心者教室サポート報告

- ・日程：2025年6月1日、7月6日、8月3日
- ・会場：東部区民館、中平井コミュニティ会館、小岩アーバンプラザ、小松川さくらホール
- ・参加者総数：延べ34名（新規参加者3名）
- ・派遣者総数：延べ7名

江戸川区で定期的に行われている「パラスポーツ初心者教室」は、身体障害・知的障害・重度心身障害のある方や、病後の体力低下により運動に不安のある方など、様々な方を対象に、誰もが楽しく安全に身体を動かせる場として実施されています。

当日は、フリースレーニング、ダンベルボールボルレッジ、マイティーポール、ビーチボールを使った体操や、ボッチャなど多彩なプログラムが行われました。理学療法士としては、参加者の身体機能や当日の体調を確認し、それぞれに合った無理のない範囲で活動をサポートしました。

また、夏季ということもあり、熱中症対策として体調チェック記録用紙を使用し、運動前に全員の体調確認を徹底。適宜水分補給を促しながら観察を行った結果、熱中症や体調不良もなく、安全に教室を終えることができました。

今後も地域と連携し、安心・安全で笑顔あふれる教室を継続できるようサポートしてまいります。今回ご協力くださった皆様に心より感謝申し上げます。



報告者：スポーツ局 スポーツ支援・推進部 安達瑠那（森山記念病院）



【活動報告】 杉並区ユニバーサルタイム

- ・ 日程：5月25日,6月4日,6月21日,7月2日,7月23日,7月30日,8月6日
- ・ 場所：荻窪体育館、上井草スポーツセンター、永福体育館
- ・ 理学療法士：延べ27人

本年度より開催された「ユニバーサルタイム永福」は、第1回を隣接するビーチコートで実施し、第2回は永福体育館で開催されました。永福会場でも、障害のある方が安心して参加できる環境づくりに、理学療法士として関わる機会をいただきました。

第1回のビーチ会場では、裸足で砂に触れる“砂慣れ”をはじめ、ウォーキングやボール運動など、さまざまな感覚刺激を体験できるプログラムが展開されました。会場への移動や入場に際しては、車椅子使用者や四肢に不自由のある方が安心して参加できるよう、スロープの設置やモビマットを活用し、移動の負担を軽減しました。理学療法士として、参加者の身体状況や不安に配慮しながら、個別にサポートを行いました。

こうした工夫により、最初は不安そうだった参加者が、次第に笑顔で砂浜を歩いたり、思い思いに楽しむ姿が多く見られました。障害のある方の「やってみよう」という意欲を引き出す、安全かつ安心な環境づくりが、具体的な変化として現れた場面でした。

第2回の体育館開催では、タンデムバイク体験やバランス運動、マット運動など、感覚刺激や姿勢制御を促す種目を取り入れ、永福ならではの特色を活かしたコーナー構成としました。ビーチ会場とのつながりを意識した工夫も盛り込まれ、一貫性のある活動として展開されました。

今後も理学療法士として、安全かつ多様な身体体験が可能となる環境設計や個別対応の視点を活かし、ユニバーサルタイムの場に貢献していきたいと考えています。



【活動報告】青山学院大学フェンシング部サポート

- ・日時：5月31日、6月14日、7月12日
- ・会場：青山学院大学
- ・参加数：延べ37名
- ・参加スタッフ数：延べ6名

【内容】

青山学院大学フェンシング部サポートでは、主にトレーニング指導、選手のコンディショニング指導、フィジカルテストを実施しております。

今年度は多くのトレーニング指導としては新入生も加入しており、さらに活気あるチームとなっております。

トレーニングでは身体的負荷を調整するため、男女でグループを分けて基礎トレーニング、アジリティトレーニング、バリスティックトレーニングを行いました。

またフェンシングは怪我の多いスポーツで、多くの選手が怪我や障害で悩まれており、個別でのコンディショニング指導も行っております。

フィジカルテストも今季2回目の実施し、前回と比べて選手の成長を感じられる結果となりました。

新入生に関しては初のテストであったため、今後の成長をサポートしていければと思います。

サポートを行うたびに選手の成長とチームの力強さを感じています。更なる躍進を実現するため、今後もサポートしていきたいと思っています。



報告者：高橋 悠輔（池上総合病院）



【活動報告】フェンシングサポート

- ・日 時：2025年5月24・25日、6月1・7・14・15・21・28・29日、7月5・6・12・19・20・21日（延べ15日 17回）
- ・場 所：台東リバーサイドスポーツセンター、江戸川区総合体育館、練馬区光が丘体育館、大蔵第二運動場体育館、北区赤羽体育館、北区滝野川体育館、駒沢オリンピック公園屋内球技場
- ・参加者：延べ2117名
- ・参加理学療法士数：延36名

5月から日本フェンシング協会様、東京都フェンシング協会様、関東学生フェンシング連盟様、江戸川区フェンシング協会様、練馬区フェンシング協会様よりからご依頼いただき、多くの大会サポートに参加させていただきました。

5月から暑い日が続く、スポーツを行うには熱中症のリスクが高い環境での競技大会サポートでした。事前に研修会に参加し、熱中症発生リスクを下げるよう事前準備したうえでサポートを行いました。選手対応を行ううえで熱中症を発生させないよう懸命にサポートを行いました。

7月に行われた第11回全国中学生フェンシング大会では、日本フェンシング協会から派遣された医師と協働しサポートにあたりました。

今回参加していただいた方々、ありがとうございました。8月以降も大会サポートは続きます。引き続きフェンシングサポートをよろしくお願い致します。



報告者：スポーツ局 スポーツ支援・推進部 生井真樹（世田谷人工関節・脊椎クリニック）



## 【活動報告】えどがわパラスポーツ体験会サポート

- ・日 時：2025年8月2日(土) 場 所：江戸川区総合体育館
- ・来場者：294名、対応者：24名、参加理学療法士数：3名

江戸川区では昨年まで、誰でもパラスポーツを体験できるイベントとして「パラスポーツフェスタえどがわ」が開催されておりましたが、今年は会場を追加して障害者のスポーツ促進を目的とした「えどがわパラスポーツ体験会」として装いを新たに開催されました。その中で、運動相談ブースの運営ならびに競技体験サポートを行いました。たくさんのブースが設置され、10種類のスポーツが体験でき、にぎやかな雰囲気で開催されました。車いすの参加者のご家族様から何ができるのか相談を受ける場面が多く、障害を持ったことでスポーツを楽しむことを諦めている方が多く見られましたが、各ブースでサポートしながら提案・体験していただき、新たな発見と喜びの声を頂けました。

イベントを通じて、誰もがスポーツを楽しみ、コミュニケーションの輪が広がることで、社会とのつながりを持てるようになることを実感できました。



報告者：スポーツ局 スポーツ支援・推進部 鈴木真治（森山ケアセンター）



## 【活動報告】EDORIKU パラ陸上教室サポート参加報告

日時：2025 年 6 月 21 日

場所：江戸川区陸上競技場

参加者：8 名

参加理学療法士：5 名

江戸川区と東京マラソン財団の協賛にて開催されている EDORIKU パラ陸上教室に、この度理学療法士として参加させて頂きました。この教室は年に数回開催されており、車椅子レースを通して運動に参加し、継続していくことを支援する教室となっております。

当日は、座学から始まり、競技場を使用する上での注意点や、速く走るために必要なことについて学びました。参加者全員が真剣に考える様子が印象的でした。その後、フィールドに移動し、体力測定やレーサー車椅子を走行するプログラムを実施しました。体力測定では、シャトルランやメディスンボール投げを実施し、スタッフ全員で参加者を励ましながら良い雰囲気で行われました。理学療法士としては、レーサー車椅子のチェックや、レーサー車椅子への移乗介助、シーティング、レーサー車椅子走行時の安全管理、運動前後での柔軟体操の指導、レーサー車椅子から降車後のボディチェック等をサポートしました。その他にも 6 月にしては暑い日であったため熱中症管理にも努めました。

今後とも、障害のある方が運動を楽しめる場所になるよう、スタッフ一丸となって安全で楽しい教室をサポートさせていただければと思います。今回、ご協力下さった皆様に感謝申し上げます。



報告者：土橋夏実（国家公務員共済組合連合会 三宿病院）

## 【活動報告】東京バリアフリービーチサポート

- ・日 時：2025 年 8 月 3 日（日）
- ・場 所：葛西臨海公園西なぎさ
- ・参加理学療法士：生井 真樹先生、岩山 睦先生、平良 寛朗先生、小野 瑞穂先生、山下 司先生、松永 輝生先生、嶺岸、以上 7 名

このたび、障害のある方々が安全に海水浴を楽しめるよう支援する「バリアフリービーチ」活動に参加し、移乗介助や体調管理を中心としたサポートを行いました。

本活動は、車椅子を使用されている方や移動に支援が必要な方でも安心して海に入ることができるよう、専門職やボランティアが連携しながら支援体制を整えて実施されました。参加者の中には毎年この活動を楽しみにしている方も多く、2 時間以上かけて来場された方もいらっしゃいました。当日は台風一過の晴天となり、気温は 36 度を超える真夏日でしたが、こまめな休憩と水分補給を徹底することで、参加者・支援者ともに体調不良や熱中症の発生はありませんでした。活動中は、理学療法士として、参加者の身体状況の確認、水中への移乗時の安全確保、身体機能に配慮した姿勢保持の工夫などを行いました。

海水浴の機会が限られている障害当事者にとって、本活動は「夏の楽しみ」を実現する貴重な機会となっており、参加者の多くが笑顔で水と触れ合い、開放感を味わっていました。ご家族や介助者の方からも、以下の感謝の言葉をいただきました。

### （感謝の言葉）

楽しい一日を本当にありがとうございました。

名前を呼んで声をかけていただき、皆さまの笑顔と優しさに包まれて、息子にとって素晴らしい夏の思い出となりました。

日差しの暑さ、水の冷たさ、波の音、海の上で感じた浮遊感——そのすべてが一つになり、息子の心に深く刻まれたことと思います。

実行委員の皆さま、そしてボランティアとして関わってくださったすべての方々に、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

今回の活動を通じて、誰もが季節の楽しみを共有できる社会のあり方や、支援によって生まれる「当たり前の日常」の価値を改めて実感いたしました。今後も理学療法士として、こうした地域活動に積極的にに関わり、障害のある方の社会参加を支援してまいります



報告者：嶺岸 洸希（東京都立荏原病院）



## 【活動報告】小学校に向けた動画教材作成

開催日時：2025年6月24日・7月1日（火）12：30～13：30

参加スタッフ：板倉尚子、渡邊祐介、板倉尚美、齋藤弘樹、森本孝則、片見奈々子、  
久木田詩穂実、向家知宏、宮森隆行、中村絵美

モデル：田中琴乃（株式会社KETY / 元新体操日本代表（フェアリージャパン POLA）主将）

伊藤 心（Team SAGA SPORT PYRAMID / フェンシング日本代表選手）

会場：順天堂大学 本郷・お茶の水キャンパス

内容：

東京都理学療法士協会スポーツ局では小学生向けの動画教材を作成しております。この度、順天堂大学のフォトセンタースタッフのご協力を得て、撮影作業が無事に完了しましたので、ご報告させていただきます。この動画は、「姿勢と体幹トレーニング」「ストレッチとケガ予防」「姿勢とケガ予防」「走る・跳ぶ」「ボール操作」など、小学生の運動能力向上と怪我予防に不可欠な5つのテーマで構成されています。理学療法士の技術と指導ノウハウを詰め込むことで、子どもたちにとって分かりやすく、すぐに実践できる内容となっています。元新体操オリンピック代表の田中琴乃選手と、フェンシング日本代表の伊藤心選手という2人のトップアスリートがモデルとして出演し、子どもたちが楽しく安全に運動できるような工夫が凝らされています。制作チームは、「どうすれば子どもたちに運動の楽しさと大切さが伝わるか」を徹底的に話し合い、選手の方々とも意見を交換しながら撮影に臨みました。その熱意が詰まった動画は現在編集中です。

この動画を通じて、小学校の子どもたちが体育の授業をより安全に、そして積極的に楽しんでもらえることを願っています。完成まで今しばらくお待ちください。



報告者：久木田詩穂実（総合東京病院）

## 【認定者報告】2025 年度 第 2 回認定スクールトレーナー養成講習会

開催日時：2025 年 8 月 2 日（土）、8 月 3 日（日）

会 場：芝浦工業大学 豊洲キャンパス

受講者：齋藤弘樹先生、杉山春美先生、恒吉礼俊先生、中山恭秀先生、片見奈々子先生、

この度、運動器の健康・日本協会が主催する第 2 回認定スクールトレーナー養成講習会が開催されました。全国から 150 名が参加され、東京からは 5 名の先生が参加され、認定試験にも合格されましたので、報告させていただきます。学校保健事業が活発化する中、皆さんで協力しながら進めていければと思います。以下、養成講習会に参加された先生方のコメントを記載させていただきます。

・ 2 日間の対面講習会においては、他の地域の理学療法士との演習が多く、情報交換や知識・技術の共有ができ、充実した 2 日間を過ごせました。この経験を今後の活動にも活かして、様々な方と連携をとりながら活動に貢献していきたいと思っています。

<医療法人財団 逸生会 大橋病院 齋藤弘樹>



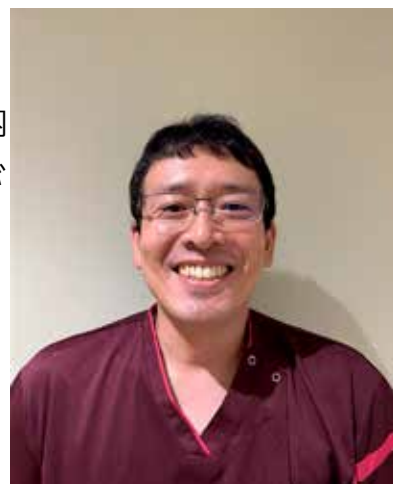
・ 2023 年に認定スクールトレーナー制度のモデル事業に参加し、2025 年度の 1 期生の皆さんと活動させていただきました。研修は実践的な内容で、経験豊富で熱意溢れるスタッフ・講師陣・全国の受講生との交流を通し、認定スクールトレーナーに必要な知識・技術・心構えを学ぶことができ大変貴重な経験となりました。

<医療法人財団健貢会 総合東京病院リハビリテーション科 杉山春美>



・ ScT 研修は昨年 3 月の申し込みから始まり今年 8 月までの間で幅広い内容を学ぶ機会を頂きました。本研修を受け運動という視点から子供たちが元気にすくすく成長出来るようサポートしていきたいと思っています。

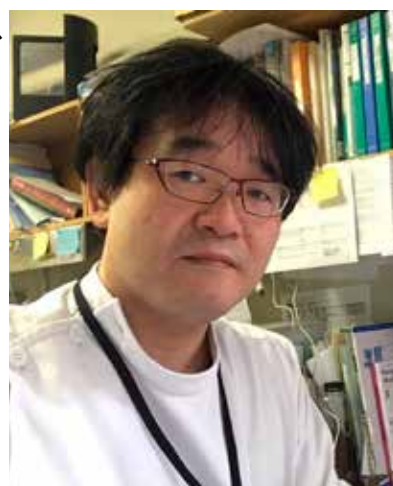
<医療法人社団 京浜会 京浜病院 恒吉礼俊>



## 【認定者報告】2025年度第2回認定スクールトレーナー養成講習会

・事前に課題として出されたWEB講義がとにかく量が多く大変でしたが、内容は濃いもので、この知識が2日にわたって行った演習で活用できた気がします。理学療法士にのみ付与される新しいライセンスを今後しっかり活用したいと思います。

＜東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座 中山恭秀＞



・今回、第二回スクールトレーナー養成講習会に参加し、資格を取得いたしました。教育や発達に関する講義もあり、児童生徒に接する際は身体的機能のみならず様々な配慮が必要であることを学びました。今後は、スクールトレーナーとして、子どもたちの健やかな成長に貢献できるよう活動してまいります。

＜まつおか整形外科クリニック 片見奈々子＞



＜講師・運営スタッフ：東京都理学療法士協会メンバー＞

報告者：渡邊祐介（子どもの健康・安全部／東京脊椎クリニック）



## 【活動報告】練馬区立開進第二小学校ねりっこ学童クラブ 夏休み講座

日時：2025年7月24日（木） 10時30分～12時  
 場所：練馬区立開進第二小学校 小学1～6年生 計72名  
 講師：渡邊祐介先生（東京脊椎クリニック）  
 アシスタント：齋藤弘樹先生、久木田詩穂実先生、久保田純弥先生、向家知宏先生、国分空以

今回、練馬区立開進第二小学校ねりっこ学童クラブより「距離感を掴む・衝突予防のための運動や遊び」のご依頼をいただき、理学療法士6名で講義および実技指導を行いました。対象は、ねりっこ学童クラブに所属する1～6年生、計72名の児童です。まず、ウォーミングアップとして、目と耳の運動を行いました。内容は、目のストレッチや目と首の運動、さらにボールの弾む音からボールの種類や位置を当てるゲームです。

その後、3チームに分かれ、空間認知や距離感を養う遊びを実施しました。具体的には、鬼の気配を感じながら行う「ハンカチ落とし」、身体や物・相手との距離を意識して動く「ボールリレー」、新聞紙を使って動くものから避けたりキャッチをする「新聞紙でエックス」、そして新聞紙のボールを相手の陣地に入れる「新聞ボール入れあいっこ」です。なお、新聞紙を丸めてボールの代わりに使用することで、安全に怪我なく取り組むことができました。



児童からは「楽しかった！」「もっとやりたかった！」といった声が多く聞かれ、衝突や転倒などの事故もなく、楽しく距離感を掴みながら運動や遊びができたのではないかと感じました。また、児童だけでなく、学童クラブの先生方にも意識付けを行う良い機会となったのではないかと思います。

今年度入学の児童はコロナ禍により、集団での遊びを多く制限されてきた世代です。子どもたちの中には空間把握力・バランス感覚・協調運動能力の発達に不十分さも見られ、衝突事故に繋がりがやすいようだと、教員の先生から、お話を伺うこともできました。今回のイベントで短時間であっても「目や耳を使った感覚入力」や「距離感を養う運動や遊び」を取り入れることで、これらの能力の向上につながり、結果として衝突予防に役立つのではないかと考えます。

報告者：国分空以（浮間中央病院）

## 【活動報告】向原保育園 職員研修会（姿勢・足・靴・ストレッチ体験研修会）

開催日時：2025 年 7 月 9 日（水） 18 時～ 20 時

会 場：社会福祉法人大龍会 向原保育園

対 象：保育園職員

参加者数：30 人

講 師：鈴木 享之（長汐病院）

アシスタント：森本孝則（子どもの健康・安全部副部長）、久木田詩穂実（子どもの健康・安全部部員）、酒井大将（山王リハビリ・クリニック）

### 内 容：

今回ご依頼頂きました向原保育園では、定期的な職員研修会が開催されています。同園の職員の方が、例年、東京保育士会様よりスポーツ局子どもの健康・安全部にご依頼頂いている「保育士向け秋の研修会」にご参加頂き、「講演会内容を自分の保育園の職員とともに共有したい」との思いより今回ご依頼を頂く運びとなりました。

当日の参加者は、保育士さんを中心とした職員の方々のため 18 時より開催となりました。姿勢、足、靴の見かた等、実技を交えて行い、簡単な評価方法と理学療法士の視点と褒めるタイミング等をお伝えしました。足の見かたでは、森本先生にも講話頂き、参加者自身が足の形や動きの傾向を評価しつつ体感すると「へえ、なるほど」「やっぱりそうですか」「おもしろい」等の感想を頂くこともできました。今までも、保育園における職員研修会にてお話する機会はありませんでしたが、やはり子どもの未来をサポートする職業の方々や形態や動作の見かたを学んだりディスカッションしたりする事は、子ども達の成長を様々な視点から育む良い機会に繋がると感じました。

最後になりましたが、このような機会を頂きました、向原保育園様に心から感謝致します。そして、様々な質問に対する対応や評価の仕方のレクチャー等、多岐に渡りアシストして下さった森本先生、久木田先生、酒井先生にも心から感謝致します。



報告者：鈴木 享之（長汐病院／スポーツ局）



## 【活動報告】豊島区立清和小学校における教員向けストレッチ講習会

開催日時：2025年7月8日（火） 16時15分～16時45分

会場：豊島区立清和小学校 教室

対象：校長・副校長含めた教員の先生方

参加者数：19名

講師：齋藤弘樹（大橋病院）・国分空以（浮間中央病院）

内容：

清和小学校では、理学療法士と共同して作成したストレッチを積極的に学校生活内で行う取り組みをしております。（都士会 NEWS No.226 P20）今回、学校から教職員の異動もあり、再度ストレッチについて学びたいとのご要望を受け、教職員を対象としたストレッチ講習会を実施しました。本講習は、30分という限られた時間の中で、「ストレッチの基本的な考え方」や「目的に応じたストレッチの種類」について、実技を交えて紹介をさせていただきました。質疑応答の時間では「マット運動の際、首を痛めないためにやっておくべきストレッチは？」「手足ぶらぶら運動”には本当に意味があるのですか？」などの質問があがり、理学療法士の視点から丁寧に解説とワンポイントの助言をし、好評を得て終了いたしました。教育現場においても、心身のセルフケアに対する関心は高く、理学療法士が持つ“身体の専門性”への期待を感じる機会となりました。今後も学校との連携を継続し、児童たちの健康や体づくりの面で、支援していけるように活動をしていきたいと思っております。



報告者：齋藤弘樹（大橋病院）



## 【活動報告】豊島区立富士見台小学校 体力測定サポート

開催日時：2025年5月20日（火） 8時30分～15時30分

会 場：豊島区立富士見台小学校

対 象：小学1年生～6年生

参加者数：301名

参加スタッフ：11名+理学療法養成校の学生2名

内 容：

豊島区立富士見台小学校で行われた体力測定のサポートに参加させて頂きました。

当日の測定種目は①長座体前屈、②立ち幅跳び、③ソフトボール投げでした。スタッフは3ブースに分かれて、ブースごとに小学生がローテーションする形式で行われました。全学年が参加されたため、多くの小学生の測定を実施することが出来ました。サポートスタッフとしての役割は1.測定補助、2.動作パターンの評価でした。特に立ち幅跳びやソフトボール投げは動作パターンに個別性があり、運動発達や動作の習熟といった観点で興味深く感じました。何より元気に一生懸命テストを行う小学生の姿にこちらまで元気をもらいました。

子どもたちの体力低下やスポーツ参加への二極化などの課題が挙げられる昨今、動作の個別性を評価し運動を修正することや、けがを予防することは我々理学療法士が学校保健領域に協力できる取り組みの一つだと感じています。運動器の健康・日本協会の認定スクールトレーナー制度も始まり、理学療法士が今後どのように貢献していけるかを考えながら、今後の活動も支援していきたいと思います。

このような貴重な機会を頂きました豊島区立富士見台小学校の関係者の皆さまと東京都理学療法士協会スポーツ局子どもの健康・安全部の皆さまに心より感謝申し上げます。



報告者：久保田純弥（聖路加国際病院）

## 【活動報告】豊島区立富士見台小学校 学校保健委員会

開催日時：2025年7月4日（金） 13時45分～14時45分

会 場：富士見台小学校

参加者：会議出席者 16名

参加スタッフ：渡邊祐介・森本孝則先生

昨年度に引き続き、豊島区立富士見台小学校からの依頼を受け、校内の学校保健委員会に出席を致しました。学校保健委員会では、内科・眼科・耳鼻科・歯科の校医の先生から今年度の検診結果についての報告、養護教諭の先生からは発育測定の平均値について、栄養士の先生からは学校給食についての取り組みなどの報告がありました。

今回、東京都理学療法士協会の子どもの健康・安全部は5月に体力測定をサポートを実施しましたので、各種目・学年の児童の傾向についての報告をおこないました。特に立ち幅跳び、ボール投げについての運動発達過程についての説明と児童の現状についてお伝えしました。また、ご家庭からの肥満の改善についての相談やケガをしていないのに四肢に痛みを訴える場合の対応についても教えて欲しいとの要望もありました。肥満の改善には厚生労働省から出されている「健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023」の内容についてお伝えしました。痛みについては、成長痛とストレッチについてお伝えさせて頂きました。校医の先生、養護教諭の先生とも意見交換が行え、より児童の実情に沿った関りが委員会をとおして連携することが出来てきていると感じます。今後も学校との連携を密におこなっていき、子どもの健康や体づくりについて支援をしていきたいと思います。



報告者：渡邊祐介（子どもの健康・安全部／東京脊椎クリニック）



## 【活動報告】練馬区立春日小学校 ねりっこ学童クラブ「アセスメントにもとづいた正しい姿勢と体づくり」

開催日時：2025年7月30日（火）10時30分～12時00分

会 場：練馬区立春日小学校 体育館

対 象：小学1～6年生

参加者数：61名

講 師：森本孝則（Physical Care Room T）

参加スタッフ：渡邊祐介、久木田詩穂実、尾崎庸宏、守屋百花、小栗円香

このたび、練馬区春日小学校ねりっこ学童クラブより「アセスメントにもとづいた正しい姿勢と体づくり」のご依頼を頂き、実施して参りました。授業中の姿勢の崩れが気になるというご相談を頂きましたので、今回の活動では姿勢教育と遊びを通じて正しい姿勢を身に付けてもらう事を目的と致しました。授業構成としては、前半は座学、後半は運動としました。座学では姿勢について学ぼう①正しい姿勢について②お互いに姿勢を確認してみよう③姿勢が良くなる運動を体験しよう。運動では良い姿勢で遊んでみよう①カッパオニ②だるまさんが転んだ③リレーを行いました。

後日頂いた生徒さんの感想には、

- ・姿勢の正しさを使った遊びが楽しかった。教えてもらったことをこれからも使いたいと思いました。
  - ・遊びに体操面白かった。学校が始まったら姿勢よく頑張っていきたいです。
  - ・良くない姿勢は、息がしづらくなったり、いろいろ知って嬉しかった。
- 等々、姿勢について知ったり、遊びが楽しかったという感想を頂きました。

今後としては、姿勢に限らず走る・投げる・跳ぶと言った基本的な運動やコーディネーショントレーニング等の様々な要素を学び、実際の運動を通じて会得していくようなプログラムを実施して行ければと思います。

今回このような機会を頂きました春日小学校ねりっこ学童クラブの皆様に関心より感謝申し上げます。今後とも皆様の健康に繋がる活動を継続していきたいと思っております。



報告者：森本孝則（Physical Care Room T）



## 【活動報告】2025 年度スポーツ現場にて起こりうる外傷への対応と搬送法について（対面）

開催日時：2025 年 8 月 9 日（土） 9 時～ 12 時

会 場：渋谷区総合文化センター大和田 学習室 1

参加者数：東京都理学療法士協会会員 21 名、（ファーストレスポnder資格取得 13 名）

講 師：国土舘大学 防災・救急救助総合研究所 都 城治先生

アシスタント：9 名

先日、救急蘇生法の講習会に参加し、心肺蘇生法や AED の使用方法を含めスポーツ中における死亡事故の三大原因である心臓、頭頸部の怪我、熱中症に対する急性期対応を学びました。いずれも迅速で適切な対応が予後を左右することを実感しました。

実技では胸骨圧迫を体験し、適切な深さと速さを保つ難しさや体力の消耗を感じました。AED は音声案内に従えば誰でも使用できることを知り、その有用性を再認識しました。また、スクープストレッチャーを用いた搬送法も学び、傷病者の頭頸部を大きく動かさず左右からすくい上げて固定する方法は、脊椎や脊髄の損傷悪化を防ぐ上で重要だと理解しました。

救命処置は知識だけでは身につかず、継続的な実技訓練によって初めて迅速かつ正確に行えると感じました。



松永輝生（池上総合病院）

## 【実施報告】スポーツ現場における熱中症者の急性期対応とシナリオトレーニング（対面）

開催日時：2025 年 6 月 17 日（火） 19 時～ 20 時 30 分

会 場：東京体育館 第二会議室

参加者数：13 名

講 師：江野澤 優 氏／現役消防官

アシスタント：鈴木享之 氏、生井真樹 氏、森本孝則 氏、渡邊祐介

### 内 容：

この度、夏の暑さが本格化する前に、熱中症対策の一環として、「熱中症発症時の対応」に関する研修会を実施いたしました。スポーツ局では、スポーツ現場における急性外傷や障害に対し、理学療法士としてどのように対応するかについて、定期的に研修を行っております。熱中症については、まず予防が大前提ですが、万全を期しても発症を完全に防ぐことは難しいのが現実です。そこで、熱中症の症状や対応に関する基礎知識、119 番通報の流れ、そして実技としてのシナリオトレーニングを実施いたしました。シナリオトレーニングでは、フェンシング大会の試合中を想定した場面で実施しました。フェンシング競技では、ケガや体調不良により「インジュリータイム (injury time)」として 5 分間の試合中断が認められています。選手役のモデルからは、「まだ試合できます！」や「めまいが強いです」といった訴えがあり、それにどう対応するかを練習しました。また、大会会場で実際に使用されるような物品を活用し、より実践的なトレーニングを行いました。ポイントは、スポーツ現場において熱中症の鑑別（熱失神、熱けいれん、熱疲労、熱射病）を正確に行うことは難しいことから、30 分以内に体温を下げるのが極めて重要であるという点です。こうした実際の現場を想定した練習を重ねることで、緊急時にも冷静かつ的確な初期対応ができるようになることを目指しています。熱中症への迅速な対応は、発症の予防だけでなく、重症化の防止にもつながります。

尚、今回の研修の取り組みは、朝日新聞社のご関心をいただき、『体育科教育』（大修館書店）2025 年 8 月号にて紹介されました。

○タイトル：スポーツ記者の目

○掲載ページ：p.48

○発行：大修館書店

今後もスポーツ局では、スポーツ現場における外傷・障害予防のための活動を継続してまいります。



報告者：渡邊祐介（東京脊椎クリニック）



## 【実施報告】スポーツ現場の第一歩！足関節テーピング集中講座

開催日時：2025 年 7 月 28 日（月） 19 時～ 20 時 30 分

会 場：東京体育館 第二会議室

参加者数：東京都理学療法士協会会員 23 名、非会員 2 名 計 25 名

講 師：上野 央 氏

アシスタント：片見奈々子 氏、平良寛郎 氏、向家知宏 氏

### 内 容：

スポーツ局人材育成部では、“スポーツ現場の第一歩！足関節テーピング集中講座”を開催しました。

足関節外傷はスポーツ現場で最も頻繁に発生し、現場での迅速かつ的確な対応が求められる外傷です。その重要性から、今回の研修会を新たに企画・実施しました。

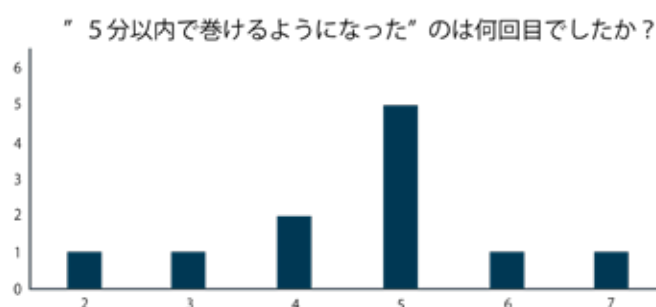
本講座では、足関節の機能解剖や損傷機序の基礎解説の後、現場を想定した実技指導を中心に行いました。短時間で確実な固定を行うための巻き方、テンション調整、固定力の確認方法など、実践に直結する技術習得を目指しました。

参加者の声としては、“授業を思い出しながら実践できた”、“基本的な巻き方を把握できた”、“短時間で選手に対応できるよう練習を重ねたい”など、技術向上への意欲が多く寄せられました。

また、“現場での具体的な流れを知りたい”、“膝など他部位のテーピングも学びたい”といった今後への要望もあり、次回以降の研修内容拡充の参考となりました。

参加された皆さまが、限られた時間の中で集中して技術習得に取り組まれていた姿が印象的でした。今回の学びが、現場での安全確保とパフォーマンス維持に直結することを願っています。

今後もスポーツ現場で即戦力として活躍できる理学療法士を育成するため、実践的かつ継続的な研修を企画してまいります。引き続き、ご参加・ご協力をよろしくお願いいたします。



報告者：スポーツ局 人材育成部 岩山睦（浮間中央病院）

## 【実施報告】第 26 回東京都障害者スポーツ大会陸上競技

5月31日（土）駒沢オリンピック公園総合運動場にて、

第26回東京都障害者スポーツ大会陸上競技の部が開催されました。

「身体」「知的」「精神」の各障がいの部門で50m走や走幅跳、ソフトボール投げなどの陸上競技が行われました。

今回、選手が安全にパフォーマンスを発揮できるようなサポートを提供したいと思い、コンディショニングサポートスタッフとして参加させていただきました。

活動内容としては、競技前後でストレッチやコンディショニングを中心に実施しました。多くの選手が参加され、対応した選手からは、感謝の言葉をいただきました。

悪天候の中でしたが、精一杯競技に取り組まれる選手の姿を見て、改めてスポーツの素晴らしさを実感しました。

また、病院や施設での業務以外でも理学療法士として、携わることができる貴重な体験だと感じました。

今後もこのような機会があれば参加したいと思いました。



報告者：村松篤弥（東京都リハビリテーション病院）



## 執筆投稿規定

1. 学術研究論文
2. 教育関係論文
3. 症例報告論文
4. 行政及び士会運営に関する論評等

### 【投稿者の資格】

公益社団法人東京都理学療法士協会会員に限る。但し会長が依頼した場合この限りではない。

### 【投稿原稿の条件】

投稿原稿は他誌に発表、または投稿中の原稿でないこと。本規定に従って作成すること。

### 【著作権】

本誌に搭載された論文の著作権は東京都理学療法士協会に属する。

### 【研究倫理】

ヘルシンキ宣言に基づき対象者の保護には十分留意し、説明と同意などの倫理的な配慮に関する記述を必ず行うこと。

### 【原稿の採択】

原稿の採択は複数の査読者の意見を参考に編集委員会において決定する。査読の結果、編集方針に従って原稿の修正を求めることがある。また、必要に応じて編集委員会の責任において字句の訂正を行うことがある。

### 【執筆規定】

#### 1. 論文構成

- 1) 標題（表題）：内容を具体的かつ的確に表し、できるだけ簡潔に記載する。原則として略語、略称は用いない。
- 2) キーワード：標題及び要旨から3個を抽出する。不十分な場合は本文から補充する。
- 3) 著者名、所属名
- 4) 要旨：「目的」「方法」「結果」「結論」を含めて400字程度で記載する。
- 5) 本文：下記の各部分から成り立っていることを原則とする。

① はじめに（序論、諸言、まえがき等）

② 対象および方法（症例紹介）：倫理的配慮を記述すること。

③ 結果

④ 考察

⑤ 結論（まとめ）

⑥ 文献：引用文献のみとして本文の引用順に並べる。本文の該当箇所の右肩に一連番号を付ける。引用文献の著者氏名が3名以上の場合、最初の2名を記載し、他は「・他」あるいは「et al.」とする。雑誌の場合は著者氏名、論文題目、雑誌名、巻、号、頁、西暦年号の順に記載する。単行本の場合は著者氏名、書名、編集者氏名、発行所名、発行地、年次、頁を記載する。

< 表記例 >

・藤田信子, 榎田康彦・他：椅子座位における側方傾斜刺激に対する頸部・体幹・四肢の筋活動—筋電図学的分析. 理学療法学, 17:27-30, 1990.

・Sepic, S.B., Murray, M.P., et al.: Strength and Range of motion in the Ankle in Two Age Groups of Men and Women. Am. J. Phys. Med., 65:75-84, 1986.

・真島英信, 猪飼道夫：生体の運動機能とその制御. 杏林書院, 東京, 1972, pp185-193.

・Junda, V.: Muscle Function Testing Butterworths, London, 1983, pp224-227.

#### 6) 図表

原寸でそのまま掲載する（作図や縮小はしない）。図の番号および標題は図の下に、表の場合は表の上につける。本文と図表は分けて作成し、表・図・写真の挿入位置を本文の右欄外に指示する。

#### 2. 原稿規定分量

原則として400字詰め原稿用紙20枚・8000字以内とする。

#### 3. 文字表記

原則として現代かな使い、数字は算用数字、単位は国際単位系（SI単位）を用いる。

#### 4. 略語

略語は初出時にフルスペルあるいは和訳も記載する。

#### 5. 表紙頁、著者頁

## 執筆投稿規定

論文には表紙頁と著者頁をつける。表紙には標題、キーワード(3個)、本文ページ数、図表枚数、原稿文字数を記載する。著者頁には著者名、所属名、責任者連絡先(住所・電話番号・Email アドレス)を記載する。表紙頁、著者頁の後に要旨・本文・図表を改めて記載する。

### 6. ページ番号・行番号

原稿にはページ番号(最下部中央)と本文右(または左)に5行ごとに行番号を記載する。

### 【原稿送付方法および連絡先】

#### 1) 原稿送付先

原則として投稿原稿一式を1つのファイルにまとめ、

電子メールに添付して下記へ送付する。上記が不可能な場合は問い合わせすること。

#### 2) 原稿送付先および連絡先

〒189-0024 東京都小金井市中町 2-22-32

社会医学技術学院 理学療法学科

(担当者) 中山雅和

TEL: 042-384-1030

FAX: 042-384-8508

E-mail: [pt\\_tokyo\\_kikanshi@yahoo.co.jp](mailto:pt_tokyo_kikanshi@yahoo.co.jp)

(平成31年1月31日 改定)

## 編集後記

9月となり、本年度も半期が過ぎました。酷暑は続いておりますが東京都理学療法士協会会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか? さて本235号は全55ページとなりました。ぜひ各部局からののお知らせ、報告をご覧になっていただければ幸いです。皆様ご存知かとは思いますが、今年度6月の定時総会におきまして会長が森島前会長から豊田新会長に引き継がれ、本会も新体制となりました。冒頭、豊田輝新会長のご挨拶と新体制の組織図を掲載いたしました。また豊田会長からのご提案にて当会部局の紹介をスポーツ局からすることになりましたのでぜひご覧になって下さい。さらに9月7日は第44回東京都理学療法学会大会が杏林大学井の頭キャンパスにて開催されます。ぜひ会員の皆様におかれましてもご注目、ご参加のほどよろしくお願い申し上げます。(M.I)

X



[https://x.com/TPTA\\_PR2023](https://x.com/TPTA_PR2023)

フォロワー 1,060

Facebook



<https://x.gd/9Ossi>

フォロワー 79

Instagram



[https://www.instagram.com/tpta\\_pr2023/](https://www.instagram.com/tpta_pr2023/)

フォロワー 519

## 公益社団法人 東京都理学療法士協会 正会員数

11,532名(令和7年8月26日現在)

(事務局) 〒151-0053

東京都渋谷区代々木 1-58-7 ヴェラハイツ代々木 201

Tel: 03-3370-9035 FAX: 03-3370-9036



